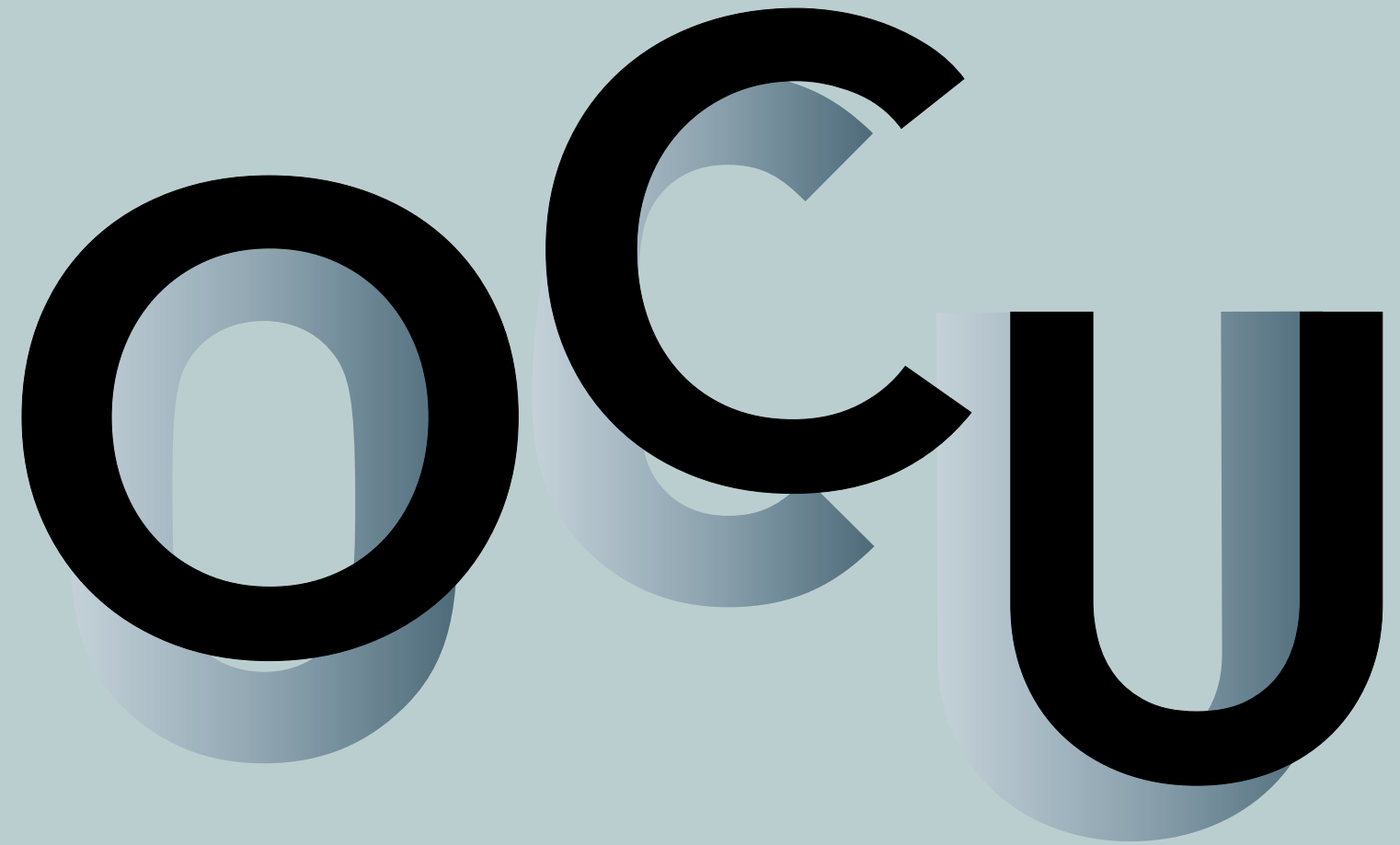
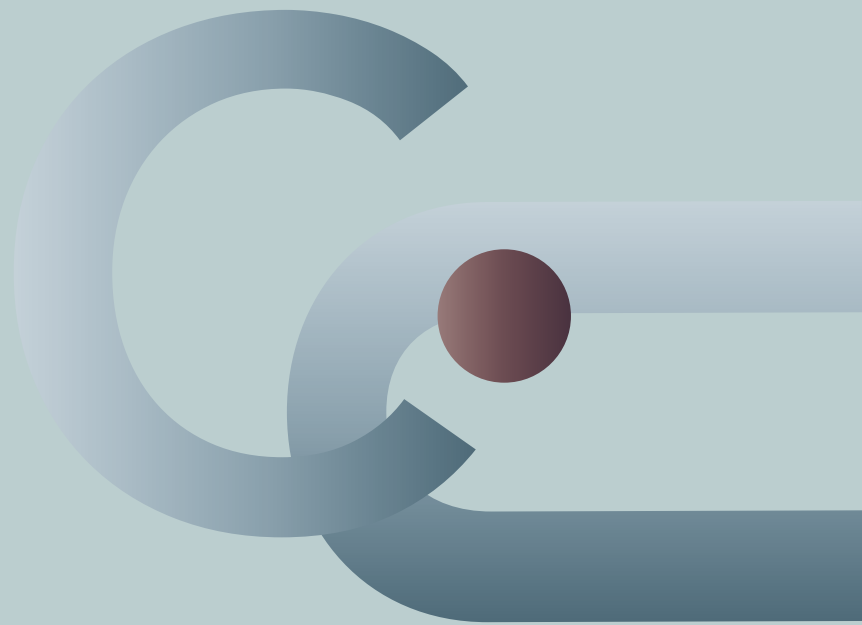


Publication of Onomichi City University Community Collaboration & Outreach Office

尾道市立大学 地域総合センター 叢書 no.12

Publication of Onomichi City University Community Collaboration & Outreach Office

尾道市立大学
地域総合センター
叢書 no.12



Publication of Onomichi City University Community Collaboration & Outreach Office

尾道市立大学

地域総合センター

叢書 no.12

ごあいさつ

平素は、地域総合センターの活動にご理解とご協力を賜りまして、誠にありがとうございます。

さて、この数年間、新型コロナウイルスの影響で、学生および教職員も自由な地域活動の制限を余儀なくされました。とくに、学生にとって、行動の「自由」が制限されることは辛いことで、われわれ教職員も大変忤怩たる思いをいたしました。

ただ、そのようななかでも、十分な感染対策を実施しながら、本学は地域活動を継続してまいりました。各ゼミにおいては、長期間にわたり継続している「街中ゼミ」、医療機関への聞き取り調査、尾道その他中四国地域へのフィールドワーク、公共機関や地域企業からの受託研究・創作活動など、できる限りの活動に取り組みました（詳細は、本冊子の「地域学習」の項目をご参照ください）。

また、尾道学入門、文学座談会、教養講座、コンピュータ公開講座、地域プレゼンテーション課題展示会・発表会などの公開講座やエフエム尾道への教員出演においては、オンライン講義、来場者の人数制限やケーブルテレビへの出演、電話出演等で対応してまいりました。

約2年間にわたり、地域との交流や行事が減少してしまったことは残念なことでしたが、危機的状況への対応を通じて、大学として、地域への「知」の還元の方法が多様であることも学ぶことができました。

社会的活動が困難な状況において、上記のような活動が可能であったのも、地域の皆さまのご理解のおかげです。その成果として、このたび、『地域総合センター叢書No.12』を無事刊行することができました。この間、地域活動や叢書の執筆にご協力いただきました皆さまに、あらためてお礼を申し上げます。

さいごに、昨年、尾道の地域文化の発展に多大な貢献をされた稲田全示先生、光原百合先生のお二人が続けて他界されました。本学はもちろん、尾道にとっても大きな損失です。地域総合センター設立当初より、センターの活動をけん引して下さり、精力的に地域活動に取り組まれた稲田先生と光原先生に対し、感謝とともに、ご冥福を心よりお祈り申し上げます。

令和5年（2023）8月

尾道市立大学地域総合センター長

森本 幾子

目次

はじめに	尾道市立大学地域総合センター長 森本 幾子	1
------	-----------------------	---

研究論文／研究要旨

尾道市立大学 教養講座について		4
-----------------	--	---

南海トラフ地震の災害リスク低減のために尾道市民ができること		
尾道市立大学経済情報学部経済情報学科准教授 堀江 進也		5

方言のもつ現代的な意味と機能 - 「おのみちしぐさ」で考えたこと -		
尾道市立大学芸術文化学部日本文学科教授 灰谷 謙二		10

箔と砂子の話		
尾道市立大学芸術文化学部美術学科日本画コース准教授 鈴木 恵麻		16

地域の活性化について“真剣に”考える		
尾道市立大学経済情報学部経済情報学科教授 小川 長		22

「水曜連歌でしよう」始末記		
—教養講座実施報告 付、尾道市立大学附属図書館蔵「賦何人連歌」紹介—		
尾道市立大学芸術文化学部日本文学科教授 藤川 功和		29

公開講座開催リスト／アンケート集計

令和4（2022）年度 教養講座 アンケート集計	34
令和3（2021）年度 コンピュータ公開講座 アンケート集計	40
令和4（2022）年度 コンピュータ公開講座 アンケート集計	42
令和3（2021）年度 情報科学研究会 アンケート集計	44
令和4（2022）年度 情報科学研究会 アンケート集計	46
令和3，4年度 尾道文学談話会 テーマ一覧	49
尾道市立大学教員 FM おのみち出演 トークテーマ一覧	52

受託研究

受託研究等一覧表	53
----------	----

新聞記事

中国新聞令和4（2022）年3月23日掲載	54
中国新聞令和4（2022）年9月27日掲載	54
尾道新聞令和4（2022）年10月23日掲載	55
尾道新聞令和4（2022）年11月20日掲載	55

地域学習一覧	56
--------	----

光原百合先生 追悼展示について	59
-----------------	----

授業紹介

昔話資料集『採訪記録 ひろしまの民話』の輪読記録

— 二〇二二年度伝承文学専門演習bの報告より —

尾道市立大学芸術文化学部日本文学科教授 藤井 佐美	[2]
---------------------------	-------

尾道市立大学では、地域に開かれた大学をめざし、教育研究活動の一端を地域に還元することを目的として、毎年秋にオムニバス形式の「教養講座」を開講しています。

本書には、コロナ禍の令和3年度にケーブルテレビ放送にて開催した講座と令和4年度に対面開催した講座の中からピックアップして研究論文・要旨論文を掲載しております。

堀江 進也（ほりえ しんや）

尾道市立大学経済情報学部准教授

1977年生まれ

オハイオ州立大学大学院経済学研究科

Ph.D. プログラム修了, Ph.D.

東北大学大学院環境科学研究科, 神戸

大学大学院経済学研究科を経て, 2020

年より現職

専門: 応用理論ミクロ経済学, 応用ミ

クロ計量経済学, 災害リスク管理

主著: Horie, S. and S. Managi (2017).

Why do people stay in or leave

Fukushima? Journal of Regional

Science, 57, 840-857.

〔総説〕

南海トラフ地震の災害リスク低減のために 尾道市民ができること

尾道市立大学経済情報学部准教授

堀江 進也¹

1. はじめに

南海トラフ地震に関するニュースや議論を目にしない日はない。しかし、災害リスクについて正確な定義にもとづいて議論は行われているのだろうか。我々は、政府によって提供されている貴重な情報を正確に把握できているのだろうか。我々は南海トラフ地震の被災を考えるにあたって、その災害リスクをいかに小さくできるだろうか。本稿は、これらを非常に初歩的なレベルで概観する。

2. 諸概念の確認

まずは災害リスクに関する定義をしよう。日常生活においてリスクという言葉は、様々な意味を加えられた形で用いられている。多くの場合、個人や組織に①負の影響をもたらす何か、②不確実にはあるが発生するという2つの条件を満たしている。しかし、その不確実さにはふたつの種類がある。災害リスクを考える前に、リスクと不確実性のふたつの概念を定義しよう。

定義（リスク） 議論の対象について将来に起こりうる事象の集合と、その事象の集合のそれぞれの要素（つまりそれぞれの事象）に対して付与されている確率が明らかである状態を「リスクがある状態」

1 尾道市立大学, 〒722-8506 広島県尾道市久山田町1600番地2, s-horie@onomichi-u.ac.jp

と呼ぶ。

定義（不確実性） 議論の対象について将来に起こりうる事象の集合、あるいはその事象の集合のそれぞれの要素に対して付与されている確率のいずれかが明らかではない状態を「不確実性がある状態」と呼ぶ。

この定義ではやや分かりにくいかもしれない。事象だの集合だのと言われるとぎょっとするが、要は①起こりうることたちのリストを把握しているか、②リストにあがっているそれぞれの起こりうることにについてどの確率で起こるか把握しているか、ということが重要なのである。例えば私が6面のサイコロを振るとする。一般的な6面のサイコロは、各面が6分の1の確率で表れるように設計されている。つまり、私がサイコロを降った時に起こりうる事象の集合は{1,2,3,4,5,6}であり、それぞれの事象に付与された確率はいずれも1/6である。①も②も満たされているため、この状態はリスクの定義にあてはまる状態である。これとは別に、私が通勤前に、自分が職場に無事につくか否かを考えるとする。起こりうる事象の集合は{無事につく, そうではない}である。しかし、それぞれの事象に付与された確率は、不幸にもまったく分からない。これは不確実性の定義にあてはまる状態である。議論の上で注意すべきことは、起こりうる事象のリストの作成の仕方である。「堀江が職場に無事につくか否か」ではなく、「最寄りの交差点に何分で到着するか」であれば、確率の推定はそれほど大変ではないかもしれない。

さて、本稿は数学を学ぶことを目標とはしていないが、災害リスクを議論するうえでは、上記の定義を知っておくことは非常に重要である。では、災害リスクの定義をみてみよう。

定義（災害リスク） 災害リスクは、外力 (hazard)、曝露 (exposure)、脆弱性 (vulnerability) の3要素の関数である。ここで外力は、自然現象の力の大きさを、曝露は、個人の外力までの距離を、さらに脆弱性は個人が外力に接触したときの、影響の受けやすさを表す。

$$\text{災害リスク} = \text{外力} \times \text{曝露} \times \text{脆弱性}$$

災害リスクを構成する要素のうち外力は、日本では「ハザード」という言葉で広く知られている。いわゆるハザードマップは、警戒している自然現象がもたらしうる外力のうち最大のものの分布を地図上に表したものである。外力の大きさは人間には制御できないものであるので、我々は曝露と脆弱性を制御することで災害リスクを管理する。ここで災害「リスク」という呼称を使っていることに注意しよう。災害「不確実性」ではないのである。完全とはいえないまでも、各機関は、発生しうる外力とそれらの外力が発生する確率を推定している。つまり、ハザードマップが示している状況は、「起こりうる」最悪の状況なのである。一見の価値があるのは言うまでもない。

3. 南海トラフ地震と尾道市が直面するリスク

それを踏まえたうえで、南海トラフ巨大地震対策検討ワーキンググループ尾道市が提供している「尾道市防災総合マップ」を確認してみよう。例えば津波のハザードマップはどのように描かれているだろうか。尾道市は山が海岸まで迫り平野が少ない。そのため、山側の住宅地は津波の影響を受けにくい。しかし、平野部にある市街地は津波の影響を受けやすい。特に港付近や河口部などでは、

平均0.5から1メートルの津波による浸水が予想されるが、これは山陽本線より南のほぼ全域にあたる。驚くべきことに場所によっては1メートルを超す浸水もありうる。繰り返しになるが、これはあくまで最悪の場合の想定である。

しかしすでに述べた通り、リスクと呼ばれるからには、このハザードは正の確率が付与された事象である。警戒は必要である。また、広島県における津波の最大波の到達時間は、地震発生後約3時間半であり、津波の影響の発生時間は最短で地震発生後10分である。南海トラフ地震のような巨大な地震の後には、道路などにも破損があるかもしれないことを考えると、急いで避難行動をとる必要がある。しかし、その一方で、尾道は、山側へ延びる道路は大小取り混ぜて数多くあるため、日ごろから十分に準備を整えていて、冷静に避難を開始すれば絶望的な状況は必ずしも発生するわけではない。無論、主要道路の横を川が流れていることを考えると、決して楽観はできない。

また、ハザードマップからは、尾道市はむしろ土砂災害に警戒すべき土地であることもわかる。実際、平成30年7月豪雨によって尾道市は非常に大きな影響を受けた。南海トラフ地震の発生と豪雨が重なれば、地滑りが発生する可能性は十分に高い。

これらを考えると、費用を無視した時に最も効果的な防災のひとつは、曝露を低減させることであると言える。つまり外力からの距離を十分にとればよいのである。住宅地を川や海岸線、あるいは急斜面から距離を取る形に再編し、それらに近い場所には「通勤」する形をとる。このような居住地の再編を行った自治体として有名なのが、宮城県の東松島市、女川町、あるいは気仙沼市などである。これらの自治体は、深刻な津波被害を教訓にして、非常に短期に高台への防災集団移転を行うとともに、市街のあり様を大きく変更した。

もっとも、これらの自治体は東日本大震災による大きな破壊があった後の防災集団移転であるため、なにも破壊がない場合に比べると、語弊はあるが移転の合意自体は比較的容易であったといえる。将来的に発生することについて必ずしも説得的ではない、あるいは少なくとも実感をとまなわない南海トラフ地震を理由にして、居住地の移転あるいは再編を行うことの合意はとめることは非常に難しい。実際、生活インフラが整っていない高台を整備することの財政負担は非常に大きい。また、個人にとっても新たな住居の購入や引っ越しの費用は非常に負担が大きい。防災集団移転には、費用への公的なサポートが不可欠である。これに対応するのが「防災集団移転促進事業」を適用した居住地移転である。この制度による補助は、最大80.2万円の引っ越し費用等の補助、最大722.7万円の住宅ローンの利子相当分の補助などを含む。しかし、それでも将来の被災についてイメージしにくい状況では、集団防災移転を行うことは難しい。

加えて、社会的な費用も軽視できない。人は自身が直面している災害リスクを考慮しても、居住地を移転することについては消極的である。居住地移転は、移転する個人にとって最適な教育や医療などの社会サービスを改めて探す費用の発生を意味する。これに加えて土地への愛着を再形成する費用まで考慮すると、居住地移転の費用は、災害リスクの低減がもたらす便益を短期において上回り、個人が短期において居住地移転を実行する確率は著しく低下する(Horie et. al., 2017)。

もっとも、長期においては個人は災害リスクの低減を目的とした居住地を行う(Hornbeck, 2012)。人生の中で引っ越しのタイミングは何度か訪れるが、その際の居住地移転で利便性が高い地域が災害リスクの低い地域にさえあれば、個人は自然とその地域に移転し、商業施設や公共施設もそこに集積するようになる。これを利用しようとしているのが高知県黒潮町である。黒潮町は、南海トラフ地震においては最大浸水深が20メートル超の津波が予想されているが、自治体全体が沿岸部にあるため、高台への移転は喫緊の課題と考えられている。しかし、前述の通りそれに関わる

費用は非常に高く、防災集団移転促進事業を適用したとしても賄いきることはできない。このため、防災拠点としての役割と同時に、利便性の高い地域を高台に設けて住民による自発的な移転を促すことを企図して、黒潮町は庁舎を内陸部の高台に2017年に移転している。人生における引っ越しのタイミングがやってきたときの移転であれば、余分な移転費用を抑えることができることから、非常に効率的な居住地の再編の計画であるといえる。防災のための居住地移転に関わる費用の議論は、鈴江ら（2020）の議論が非常に興味深い。

4. 尾道市では何ができるか

現状では、尾道市は、人命保護の観点からは居住地移転までを必ずしも考える必要はないのかもしれない。しかし、今後家屋が災害によって非常に大きく破壊される可能性は、常に考えておかねばならない。家屋、全壊・半壊することは自身の資産の大きな損失を意味するが、阪神淡路大震災においては、被災して家屋の全壊・半壊を経験した個人の消費は被災20年後においても被災していない個人に比べて大きく下回っていることが分かる。これは、いわゆる所得のライフサイクルにしたがって壮年期に形成される資産が被災によって失われたために、定年後の消費に備えて改めて資産を再蓄積しようとして生涯を通じて消費が小さく抑えられてしまうことに起因すると考えられる（地主ら、2019）。尾道市においては、空き家を活用した居住地の再編も考慮すべき対象かもしれない。

また、避難時において自転車を用いた迅速な移動を考えるのもよいかもしれない。幸運なことに、尾道市において津波浸水が考えられる地域は平坦である。自転車の移動は、比較的現実的であるといえる。自転車での避難を主な手段とし、自転車に乗ることが難しい住民に限定して自動車を用いれば、交通渋滞は起きにくくなる。実際に、太平洋に直接面している愛知県においては、すでに自転車を利用した避難訓練はすでに実施されている（村上ら、2016）。自転車と観光が強く結びついた尾道市において、避難を想定した自転車の配備や道路の整備を行うことは、あるいは居住地移転よりも現実的かもしれない。

5. おわりに

本稿は、災害リスク管理の基礎的な概念と、尾道市が直面している災害リスクとそれに関する課題を考えるうえで参考になる事項について議論した。社会における問題の全般がそうであるように、災害リスクの管理も議論するうえで長幼の序なく、いかなる知見も正確である限り重要である。そして、この知見を得るために必要な技術と哲学を、尾道市立大学は提供している。学生諸氏が問題を自身で設定し、学んだ内容をいかに応用するかを考え続けさえすれば、大学が提供するいかなる学問も実学であり得る。大学に在学する期間は、「寝ても覚めてもこればかり」考えるような対象を見つけられることも、実際にそのような生活を送ることも可能である貴重なものである。学生諸氏には、この重要かつ楽しい期間を大いに活用することを願ってやまない。

参考文献

1. Horie, S. and S. Managi (2017). Why do people stay in or leave Fukushima? *Journal of Regional Science*, 57, 840–857.

2. Hornbeck, R. (2012). The enduring impact of the American Dust Bowl: Short-and long-run adjustments to environmental catastrophe. *The American Economic Review*, 102 (4), 1477-1507.
3. 尾道市防災総合マップ, <https://www.city.onomichi.hiroshima.jp/site/bosai/3238.html> (2023年6月25日閲覧).
4. 地主敏樹, 堀江進也, 萩原泰治 (2017). 「大災害からの生活水準回復」, *国民経済雑誌*, 216 (4), 1-14.
5. 鈴江和好, 中野 晋 (2020). 津波被災想定地域における事前住居移転の推進方策の検討. *土木学会論文集 B2 (海岸工学)*, 76 (2), 1297-1302.
6. 村上ひとみ, 脇浜貴志, 小山真紀, 奥村与志弘 (2016). 津波避難における移動手段と自転車活用に関する研究—南海トラフ地震に備える愛知県田原市の訓練事例—. *地域安全学会論文集*, 28, 1-9.



灰谷 謙二（はいたに けんじ）

尾道市立大学 芸術文化学部 日本文学科教授。
担当分野は日本語学（現代語）です。方言学を
専門分野にしています。瀬戸内海をはじめ、
島しょ部の方言を中心とした言語変化論、生業
語彙研究をテーマにしています。小説や映画・
ドラマなどで使われる方言にみられる方言イ
メージや典型像、方言の社会的機能にも関心を
もって研究しています。

方言のもつ現代的な意味と機能 －「おのみちしぐさ」で考えたこと－

尾道市立大学芸術文化学部日本文学科教授
灰谷 謙二

1. はじめに

尾道市環境政策課で2011年のたばこマナーキャンペーンから始まった「おのみちしぐさ」は、尾道らしく、互いのことを思いやる気持ちをベースにした、環境・エチケットについてのマナーアップ・キャンペーンである。このなかで方言をつかった語り掛けがどのように企画されたかを振り返りながら、方言のもつ現代的な意味と機能について考えてみたい。

1.1 「おのみちしぐさ」とは

「おのみちしぐさ」は、「相手を思いやり、互いに気持ちよく暮らすための哲学。尾道市はマナーとエチケットを大切にします」をコンセプトとして2011年秋にスタートした尾道市のマナーアップ・キャンペーンである。このなかの、方言をもちいたコピーなど文章面を筆者が担当し、アートディレクション・デザインを高岡陽（当時、美術学科教員）、イラストレーションは河村真名（尾道市大大学院美術研究科院生）が担当し、スタートした。

マナーアップ・キャンペーンとしてもとめられる表現は…

マナーアップ・キャンペーンであるからには、発信者と受信者の間には一定の緊張関係がうまれる。どのように穏やかに言ったとしても、そこには迷惑しているものと迷惑をかけているものの立場の違いがあり、その中に挟まれ対応を求められる行政、という基本的構図がある。そこで求められる

ものは、何を、だれが（どのような立場で）、どのように伝えるかという点での下記の方略であった。

何を＝公共の精神や道徳心、良識・マナーにかかわるものを

だれが＝対立関係に直接かわからない（だが当事者性のある）尾道にからんだキャラクターを設定すること

どのように＝直接的な注意や指導ではない形、かつ尾道方言で語りかける。

おのみちしぐさの基本コンセプトは、これをねらうものとして企画された¹。以下、実施の時系列に沿って、たばこマナー編から COOL CHOICE 編までのながれを追って、方言をもちいたコピーを担当したものの立場から振り返ってみたい。

2. 2011 年から 2020 年の 4 つのおのみちしぐさ

2011 年からはじまった 4 編のおのみちしぐさについて、時系列順にそれぞれ簡単に内容をふりかえってみる。2011 年から 2014 年は一連のキャンペーンの流れのなかでシリーズ化され、しばらく間が開いた形で 2020 年の COOL CHOICE 編が行われている。

担当も、1 から 3 回はプロジェクト担当としての、アートディレクション・デザイン高岡陽、イラストレーション河村真名（尾道市大大学院美術研究科院生）と筆者のチームプロジェクトになったが、二人が移籍、院修了などありプロジェクトを離れたあとをうけて、アートディレクション・イラスト面を、地域総合センター青井典子（当時）が担当することになった。方言をもちいた文案については筆者が引き続き以後も担当した。

2011 年 たばこマナー編

2012 年 自転車マナー編

2014 年 ペットマナー編

2020 年 COOL CHOICE 編

2.1 たばこマナー編 2011（平成 23）年度

本企画のスタートとなったものである。広報媒体物については JT との協力関係があり、配布物の携帯灰皿や市中に設置される大型灰皿の提供をうけ、大学側はそのデザインを担当した。

マナーにかかわることを語るキャラクターを設定するにあたり、市に関係の深い動物をモチーフにしたいということになった。猫は害獣として困っている方もあって使えないといった諸事情を勘案し、尾道水道が別名鶴湾とよばれ、造船ドックにクレーン（鶴）が立つ景観があることから、鶴をキャラクターにすることとなった。「ええじゃん」のジャンとクレーンをとって、ジャン・クレーン博士というネーミングでのキャラクター設定がされた。

このキャラクターに方言解説をさせ、あわせてマナー啓発の内容をからませる。直接的にマナーを説くのを避け、方言について説明する中に、自然にマナーにかかわる文言がはいってくるようにしかけること、観光都市らしいもてなしの空気の中で、おしつけがましくならないやわらかな啓発

1 当時、同様のマナー啓発ツールとして、「江戸しぐさ」の語が巷間広まりつつあった。企画段階でも、これは意識され、ネーミングについて、これの尾道版をつくってわかりやすい概念として広まってほしいという意図もあった。のち「江戸しぐさ」には実態や根拠のないものであるという批判もあったようであるが「おのみちしぐさ」については、経緯承知の上で、そのようなものとは切り離された尾道市独自のマナーアップ・キャンペーンのフレーズとして今も使っている。

を実現することを目指した。

方言としては「ふうがええ」（世間体・体裁が悪い）という、県下に広く使われる表現を辞書のようなスタイルで説明し、図1のように原稿用紙デザインで文具とからめてビジュアルをととのえた。

世間体が悪いことを「ふうがええ」といいます。個性の時代、世間体を気にしすぎるのも気にしなさすぎるのもいけません。（中略）

「そが一なことをして ふうがええ」といったしなめてくれていた親や祖父母の時代の価値観を大事にしましょう



図1 携帯灰皿のデザイン

煙草のポイ捨てについて直接的にいうのではなく、読めば、それはたばこマナーについていっているのだなとわかるような仕掛けにしたものだった。

2.2 自転車マナー編 2012（平成24）年度

第2弾は、観光都市尾道としての重要コンテンツである自転車を、安全面と両立させるという課題に向き合う、自転車マナーに関するものであった。「全国から訪れるサイクリストや観光客に、さすがは自転車のまちと言われるように、自転車ルールを守ることや、マナーアップに取り組む」ということがねらいとなって企画された。

背景的には、人と自転車が共存する街にあって、市民のマナーだけでなく、尾道を訪れる人たちの安全も考えること、サイクリストをまねく街として、内外のサイクリストや生活・観光にむすびつく自転車の生活を、よいものにしていくことを両立させる難しさがあった。図3は「恐ろしい」ことをいう備後方言「きょうてー」を説明する流れで、「きょうてー自転車じゃのう」につなげている。これは黒板とチョークが意図されたデザインであった。



図2 パンフットップページ



図3 きょうてー（恐ろしい）のページ

2.3 ペットマナー編 2014（平成26）年度

第3弾はペットマナーから、動物愛護一般とした、飼い主のマナー向上を図るものだった。これに関しては、被害に困っている人の切実な思いがあって、マナー看板の類も多い話題であった。一方で、古い習慣のなかで、その迷惑をしている側の思いが届かない人も多いであろう。そのような人たちに本当の意味で態度変容をうながす、相手に届くメッセージにしたいという思いがあった²。

2 「こういった苦情への対応には行政側も苦慮しているのだが、命令指示を強く行ったのではこれらは解決しないと考えた。そこを踏まえ、今回の制作では、行政からの「上からの目線」での通告系告知ではなく、ペット目線から「疑問」を投げかける、という形式をコンセプトとした。」高岡陽2015『尾道市立大学芸術文化学部紀要』14

このような看板類の表現には、一方的通告にならないよう誘いかける勸奨型（～ましょう・しょう）や、お願い型（～ください）、いいさし型（～して）のような穏やかなものがある一方で、行動言及・評価型（それは犯罪だ・ダメだ）、行為否定（してはいけない）、迷惑表明（困っています）、直接禁止（するな）等の、厳しい表現のものまでいくつかのパターンがある。

いずれにしても、ことが日常的に多発するものだけに、一方で形骸化し、迷惑をかける側には問題として意識されないものになっているのかもしれない。この看板の表現のパターンを変え、まずは「見られるもの」にすることが課題になる。ペットマナーを気にしない人には、迷惑をかけられている側からの「怒り」「不愉快」などのネガティブな感情は届きにくい。たとえば、糞尿の始末をせず放置する側、される側という対立のなかに、家族としての「犬」を擬人化しておいてみよう。わが子が公道で粗相をすれば、放っておくことはない。なによりその子が恥ずかしい思いをするだろう…という発想でつくったのが図4の犬のキャラクターとコピーであった。



図4 いぬる 看板

「いぬる」という広島方言の説明を、ジャン・クレネン博士がしたあとで、「おとうちゃん ほくのうんち…持っていんでね。恥ずかしいけえ。」というコピーと、犬のキャラクターの絵がおかれる。「いぬる」から「もっていんでね」の「いんでね」に赤チョークが飛ぶという構図である。この看板は観光客の目にもよくとまったようで、設置当時のSNSで観光客がアップしているものが検索にひっかかることがままあった。デザイン的にはグレーの道路にチョークで絵を描いたイメージであった。

2.4 COOL CHOICE 編 2020（令和2）年度

直近のものが、2020年度のCOOL CHOICE編である（図5）。地球温暖化対策の具体的な行動指針としての「脱炭素」対策が、政府主導で始まり現在も継続されているキャンペーンである。尾道市もCOOL CHOICE宣言都市の表明をし、啓蒙広報活動を行うなかで、「おのみちしぐさ」プロジェクトとしてCOOL CHOICE編を作成することとなった。このような地球規模の大きな課題を扱うには、一般市民が一人一人、わがこととして日常の中に落とし込めるものにする工夫がある。抽象的で大局的な話題を、日常レベルの行動変容に結び付けるのは、相当の困難があることが予想された。先行の環境省の啓蒙媒体にも苦労のあとが見受けられた。



図5 COOL CHOICE

なぜ、私たち一人ひとりの行動が必要なのでしょうか？

「脱炭素」と「私たちの暮らし」は関係ないと思っている方もいらっしゃるかもしれません。実は、我が国のCO2排出量の約6割が、衣食住を中心とする「ライフスタイル」に起因していま

す。(一人当たり年間 7.6t-CO₂ 排出 (2017 年)) (環境省 HP³ より)

尾道市も COOL CHOICE 宣言発出都市となり (図 6)、市の企画段階から、キャンペーンのキャラクター化、方言での語り掛けは必須の要素となった。

前 3 回までのキャラクターの鶴のジャン・クレーン博士を変更した。瀬戸内は、絶滅危惧種ハクセンシオマネキやワタリガニなど、カニが重要な生物であること、方言で語りかけるキャラクター性に必然性があり、より自然なものになるのは、高齢者であることを考えて、カニのおじいさんとおばあさんが、若い世代に方言で語り掛けるスタイルへ変更した。子や孫の世代への思いを代弁する存在、やさしく親しみのある、方言がつかえる距離感で、マスへの喧伝ではなく一人一人への語り掛けになるようにという意図もあった。取り組みテーマは、「ウォームビズ」「クールビズ」「エコドライブ」「スマートムーブ」「できるだけ一回でうけとりませんか」「明かり未来計画」「シェアリングエコノミー」と多岐にわたった。以下、「クールビズ」と裏表紙に関するコピーとデザインをあげてみる。イラストデザインは地域総合センター青井典子氏 (当時) による。



図 6 市 COOLCHOICE 宣言

クールビズ

家でも職場でも暑いのはやれんです。

冷房のきいた部屋は気持ちええですの。

じゃが、クーラーかけりゃあかけた分だけ

どこかべつのところが熱うなりよりもすで。

どうやったらクーラー使い過ぎんでようなるか

いろいろ考えてみましょう。

まずは堅苦しい恰好やめて半袖半ズボン、できることなら

お互いに楽な恰好さしてもらいましょう。

(パンフ裏表紙)

この子が大きくなったらどんな世の中になつとるん
じゃろう。わが子の心配をする。誰でも持つとるこの
思いやりと想像力

これをみんなが、ちいとばあでええけ積み重ねる。

大事なのは、このあなたの小さな選択が次の世代への
大きな仕事になっていくという想像力。

われさえよけりゃあええんじゃないよ。

この子らにええ世の中をわたしてやりましょうや。



図 7 パンフ類

3 https://ondankataisaku.env.go.jp/coolchoice/about/action_required.html

これはちゅぴCOM おのみちによって動画化されたものがケーブルテレビで放送されたのち、Youtube⁴で公開され、紙芝居化し小学校等での教育活動にも利用された。

3. まとめ

尾道市のマナーアップキャンペーンが、「おのみちしぐさ」プロジェクトに求めたものは、当初より多様性と寛容のころにあふれたものであってほしいという思いであった。観光都市として、語り掛ける言葉・看板類を攻撃的・排除的なものにしたくない、わかりやすくいえば、「ぎすぎすしたものにしたくない」ということである。それは、商業都市尾道のなりたちや発展に根差した協調性を大事にする風土とかかわるだろう。喫煙マナー・自転車マナー・ペットマナー、COOL CHOICE、いずれのキャンペーンも、公共心や思いやりの心をもって、社会の困りごとを他人ごとにししない、わがこと意識をもつところからスタートすることのできる市民性への願いと信頼が根底にあるともいえる。

「おのみちしぐさ」を方言でかたることの意味はどこにあるのか。方言は、情と理でいえば情のことばであり、「公」と「私」でいえば「私」のことば、個と個のあいだのことばとなる。マナーにせよ、地球温暖化にせよ、相手の立場や遠い未来のことを、想像力を駆使し大局的な視点にたって、論理的に考えて行動をしなくてはならない。言う側はどうしても、理屈っぽくなったり感情的になったり、指導的な上からの目線になる。「諭す・叱る・クレームを言う」ものになる。必然的に受け取る側を「言われる」もの、責められるものにする。方言で語り掛けることで、抽象的で遠い問題が「わがこと」になり、具体的で身近な問題になる。対立的な関係が、同じ足場をもって問題を共有できる関係になる。そのような機能が方言にあるなら、すこしでも役に立てるのではないか。そのような願いを込めて取り組んでいる。

参考文献

1. 高岡陽 2015「おのみちしぐさ（尾道市マナーキャンペーン／ペットマナー編）」『尾道市立大学芸術文化学部紀要』14
2. 環境省サイト https://ondankataisaku.env.go.jp/coolchoice/about/action_required.html
3. Youtube 動画公開リンク <https://www.youtube.com/watch?v=-PjUie6GD6U>

4 <https://www.youtube.com/watch?v=-PjUie6GD6U>

鈴木 恵麻 (すずき えま)

東京藝術大学大学院美術研究科修士課程日本画専攻修了。2019 年より現職。

主な受賞歴は、「春の院展」第 54 回初入選 (1999 年)、第 59 回奨励賞 (2004 年)、第 73 回春季展賞 (2018 年)、「有芽の会」法務大臣賞 (2002 年)、天心記念茨木賞 (2009 年)、第 106 回「院展」奨励賞 (2022 年)、その他多数。



箔と砂子の話

尾道市立大学芸術文化学部美術学科日本画コース准教授
鈴木 恵麻

はじめに

長かったコロナの自粛期間をこえて、久々に教養講座が対面で行われることとなった。

本稿は 2022 年 10 月 22 日に行われた 2022 年度教養講座第 1 回「箔と砂子の話」の内容をまとめたものである。本講座では美術、主に日本画の分野を主として、「箔」について様々な視点から紹介した。

「箔」は意外と我々の生活の身近に存在している。おめでたい席の金屏風や、重箱や漆器、陶磁器の装飾、アクセサリや着物、そして手近なところだと金箔をちらしたチョコレートなどの菓子もある。「箔」は古来から装飾として色々な分野で使われ、その輝きは作品に様々な効果をもたらしてきた。本稿では美術の分野から「箔」とは何か。「箔」がどういう意図で幾多の芸術作品に使われてきたのか。その歴史と変遷について。また箔の種類や代表的な技法について述べる。また本講座は対面ということもあり、受講者に実習形式で実際に箔技法を体験してもらう機会を得た。その実習内容についても述べていきたい。

1, 「箔」とは何か

「箔」とは金属を薄く叩き延ばしたもので、金や銀のほか様々な金属が箔に用いられる。特に金だと 10 円玉の半分の 2g くらいの大きさを畳 1 畳分にまで延金を打ち延ばす。その薄さは 10000 分の 1mm である。これは金が「延性」という圧力をかけると結晶構造が滑ってずれて広がっていくよう

に変形していくため、その腐食しにくい性質と共に軟らかく加工しやすい特性が、洋の東西を問わず装飾に用いられてきた。

2, 日本における「箔」を使った作品と、その変遷

「箔」の中でも主に金箔は古来から芸術と深く関わってきた。その歴史は古く紀元前 4000 年前の古代エジプトで製造が始まり、日本では仏教の伝来と共に金箔の製造技術が伝わったとされている。奈良県明日香村のキトラ古墳の天井には金箔で星を表した天文図が現存し、飛鳥時代には日本最古の截金文様のある「玉虫厨子」、奈良時代には唐招提寺の「千手観音立像」に代表される漆を塗った上から金箔が施された仏像をはじめ、多くの仏教美術に金を持つ「光」や「神性」、「普遍」や「永遠」のシンボルとして金箔が使われるようになった。平安時代には厳島神社に平家が奉納した「平家納経」や、奥州平泉の「中尊寺金色堂」のように一門の繁栄や極楽浄土の具現化を目指して、「箔」の技法は更に洗練されていく。

室町時代の金箔の建造物の代名詞でもある「金閣寺」、そして安土桃山時代では金山の発見により金の産出量が急増することで桃山文化という黄金の時代が開き、「黄金の茶室」で有名な豊臣秀吉をはじめ有力大名達が権力の証として金箔の豪華さを好み、「金碧障壁画」が桃山時代の代表的な絵師である狩野永徳によって城や御殿の襖や屏風を飾っていった。江戸時代には俵屋宗達の「風神雷神図屏風」、尾形光琳の「紅白梅図屏風」など、日本の絵画の持つ平面性が金箔の持つ平面性と融合し、金箔の部分は単なる装飾性以外にも無限の奥行を持つ濃密な空間を連想させる効果を生み出すこととなる。そして近代、パリを目指した洋画家の藤田嗣治は「箔」の技法を自らの作品に生かした作品を制作し、工芸では西出大三、日本画では尾形光琳の琳派に影響を受けた加山又造、サブカルチャーを基盤としつつ多様な作品を生み出す村上隆など、「箔」の伝統技法を受け継ぎながらも、それぞれの作家の作品世界の中で、独自の表現の一つとして昇華させていくのである。

3, 「箔」の種類

箔の種類は大きく金系統、銀系統、その他の系統に分類される。

① 金系統

金系統では、金が 90% 以上の含有率で作られているものを「純金箔」といい、銀や銅を合金しているものは「〇〇金箔」とされ、純金箔の等級は 5 毛色、1 号色、2 号色、3 号色、4 号色、三歩色、定色に分かれ、図のように金銀銅の含有量によって等級がつけられている。

純度の高い順に赤金、青金、水金と呼ばれ、赤金は地金に 24 金を使用しており、青金と水金は地金に 18 金が使用され、銀を含むために青味があった色をしている。

金の含有率が高いほど何年たっても変色しないが、銀の含有率が高くなればなるほど化学変化により黒く変色していく。また 24 金は柔らかいため扱いが難しい。

	純金 5 毛色	純金 1 号色	純金 2 号色	純金 3 号色	純金 4 号色	三歩色	定色
金	98.912%	97.666%	96.721%	95.795%	94.438%	75.534%	58.824%
銀	0.495%	1.357%	2.602%	3.535%	4.901%	24.466%	41.176%
銅	0.593%	0.977%	0.677%	0.670%	0.661%		

表 金箔の種類における金・銀・銅の含有率

② 銀系統、その他の金属

「銀箔」は金よりも厚めに作られており、技法をおこなう上で比較的扱いやすい箔である。

銀は酸や硫黄化合物と化学反応をおこし黒に変化しやすくなるため、膠水に明礬をとかした礬砂水などで表面を保護する必要があるが、化学変化による色の変化を楽しみ、表現の一部として取り入れることもある。

「銀箔」を酸化や硫黄化合物と化学変化させたものが「黒箔」や「中金箔」、「玉虫箔」、「赤貝箔」などであるが、加工してある箔は割合と脆く扱いが難しい。

その他の箔として、「プラチナ箔」、「錫箔」、「洋箔」、「アルミ箔」などがある。プラチナ箔は99.99% プラチナで出来ており、プラチナ箔は銀箔と違い化学反応による変色がない。

また「銅洋箔」は「真鍮箔」とも呼ばれているが、銅と亜鉛から作られており、昔から金箔の代用品として使われることもあった。

また銀箔に染料で着色した「親和箔」、アルミ箔に樹脂や顔料、染料で着色したものを「光彩箔」といい、こうした箔以外にも、現代ではバリエーションにとんだ色や風合いの箔が登場している。このように金箔といっても金箔には細かく等級があることや、金箔、銀箔以外にも様々な金属の「箔」があるのである。

4, 「箔」の技法について

「箔」の技法は様々あるが、本稿では代表的な箔の技法について述べていく。

- ① 「箔押し」…箔を扱う上で最も基本的な、箔を紙や木などの支持体に貼る技法である。箔を貼ることを「箔を押す」という。なぜ「貼る」ではなく「押す」なのか。これは実際に箔押しの作業をすると感覚的に理解できる技法言葉であり、例えば日本画では水を紙に塗るときに「水を塗る」ではなく「水を引く」という言い方をする。まさに塗るのではなく引くように塗った方が上手くいくからなのだが、「箔押し」をする場合にも箔を定着させるドーサ液（膠水に明礬を混ぜた液体）を支持体に塗る。これも「ドーサを引く」と言い、「箔押し」をするにあたり、定着力を良くするために予め数回「ドーサ引き」をおこなう。これを「捨てドーサ」という。技法は感覚的に覚えていくもので、こうした技法言葉が仕事が上手くいく方法を暗に教えてくれているという一つの例であろう。
- ② 砂子…箔を砂子筒という竹でつくられた筒を通して細かくしたものを、画面に定着させる技法である。この技法のことを「砂子を蒔く」といい、砂子筒には様々な編み目の大きさの筒があり、必要な表現によって砂子筒を使い分け、様々な大きさの砂子を蒔くことが出来る。
- ③ 切箔…切箔は箔を小片に切り画面に蒔いていく、まき散らしたような自然な趣が特徴の技法である。正方形に切ったものは山椒や霰（あられ）、小石といい、大きさによって呼び名が変わる。小石より多きなものは大石という。また糸状に竹の刀で細く切ったものは野毛といい、野毛とはイネ科の植物の花の外側にある突起の「のぎ」に似ていることからこの呼び名がついたとされている。野毛より太いものは短冊といわれ、このように切箔はそれぞれの特徴をよく言い表している呼び名がついている。
- ④ 截金…枚数を重ねた箔を炭火で焼いて厚みを持たせ、細い線や三角、四角、菱形の小片に切り、これを貼り付けて文様や図形を表現する技法である。膠液に布海苔を混ぜた接着剤で筆を使って定着させていく。仏像や仏画、工芸品などに使われる繊細華麗なこの技法は熟練の技が必要

である。

以上の4つの技法以外にも、箔を細かな粉末にして絵の具のようにして塗る泥^{でい}とかいて「泥」と読む「金泥」や「銀泥」の技法など、様々な技法が存在している。これらの技法は美術表現にとって、それぞれ非常に効果的な役割を果たしている

5, 「箔」実習

今回の教養講座では実際に箔に触れ、技法の一端を体験することにより箔への理解を深めてもらう狙いから、数多くの箔技法の中から以下の2種類の技法を受講者に体験してもらった。技法は砂子蒔きと削り出しである。砂子は5種類の砂子筒から受講者に任意で選択してもらい、予め岩絵具（新岩焦茶13番）を塗った部分に砂子を蒔くという作業をおこなった。削り出しは硬筆で転写した図案をサンドペーパーで削り出すことによって、文様を浮かび上がらせる技法である。どちらの技法も箔を初めて触る初心者にとっては比較的優しく、なおかつ箔の持つ特性を感じられる技法といえる。なお今回の教養講座実習では時間の関係上、画像にある銀箔押しの技法は省略した。

技法（1）…砂子蒔き

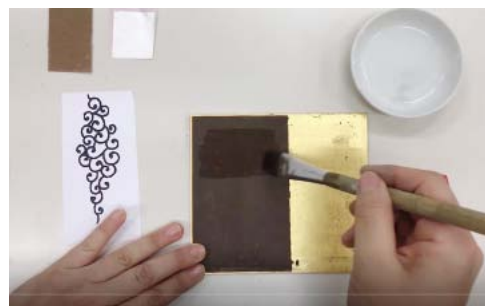
予め岩絵具で彩色した色紙の部分に5種類（極細、細目、中目、荒目、極荒）の砂子筒の中から2種類の筒を選び、砂子蒔きを行う。



図 砂子筒の種類

① 砂子蒔き工程1

岩絵具で彩色してある部分に砂子を定着させるためのドーサ液を塗る。（捨てドーサ）



② 砂子蒔き 工程2

1種類目の砂子筒を選ぶ。画面は極荒（最も網の目が粗く砂子の粒が大きいもの）



③ 砂子蒔き工程 3

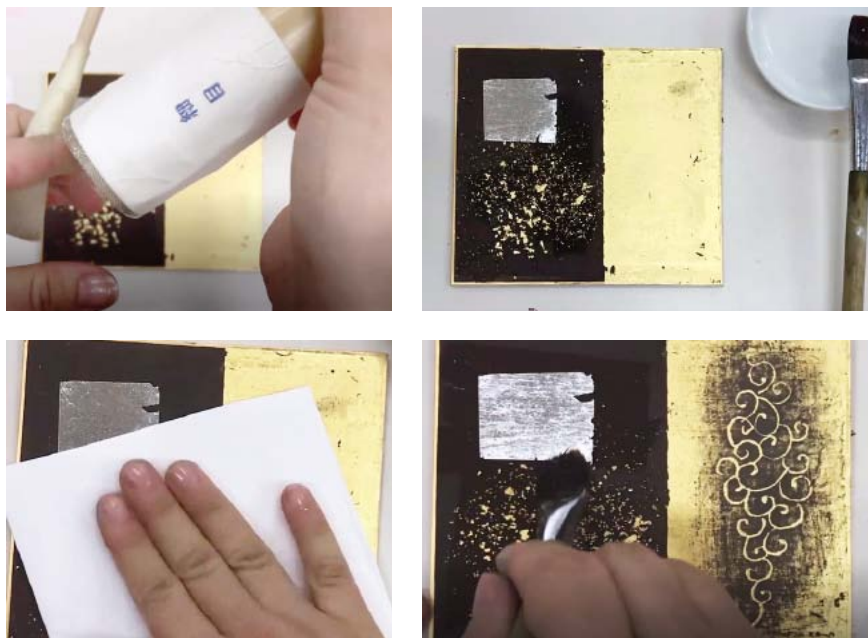
箔を砂子筒の中に入れ、竹の筆で砂子を蒔く。(画面の箔は純金箔 4 号)



④ 砂子蒔き 工程 4

2 種類目の砂子筒を選ぶ。画面は極細 (最も網の目が細かく砂子の粒が小さいもの) 1 種類目の砂子筒と同じ工程で砂子を蒔く。

砂子を押し紙で押した後、定着させるための艶消しドーサを塗る。



技法 (2) …削り出し

予め箔押しをおこなった部分に図案プリントをのせた後に、サンドペーパーで文様を削り出す。

① 削り出し 工程 1

色紙の箔が押しあがった部分に図案プリントをのせる。



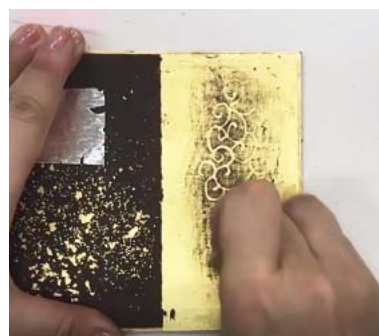
② 削り出し 工程2

図案プリントの上から硬筆（今回はボールペン）で図案の文様をなぞり転写する。



③ 削り出し 工程3

サンドペーパーで転写した文様を削りだす。



④ 完成



6, おわりに

「箔」について、その歴史や代表的な作品とその変遷や技法、そして実習も含め様々な視点から紹介し、日本美術の中で誰もが知っている作品に使われていることや、金箔にも等級があること、また金箔銀箔以外にも様々な金属が使われていることについても述べてきた。ただ「箔」も他の伝統技術と同様に、生産地の後継者不足などが今後の課題となっている。製造技術と共に表現者が伝統技術を継承しつつ「箔」の新たな可能性を模索していくことが、「箔」の持つ普遍の輝きを未来へ伝えていくことになるのではないだろうか。

参考文献

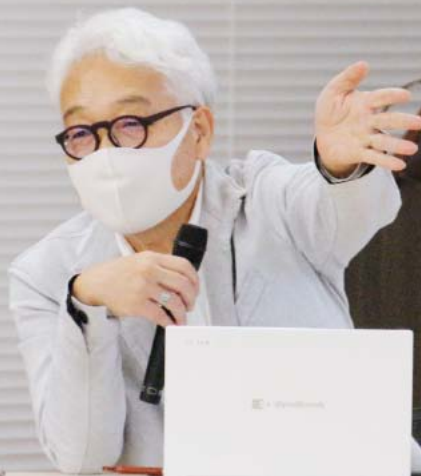
図解「日本画の伝統と継承—素材・模写・修復—」東京美術 2002 年

「日本画名作から読み解く技法の謎」世界文化社 2014 年

「日本画の用具用材」武蔵野美術大学出版局 2010 年

小川 長（おがわ おさむ）

経済情報学部教授、博士（経済学）。
中小企業診断士、行政書士、AFP（日本ファイナンシャル・プランナーズ協会会員）。日本地方自治研究学会副会長、日本情報経営学会理事。1958年広島県三原市生まれ、1981年立命館大学法学部卒業、2005年神戸大学大学院経済学研究科博士後期課程修了。専門分野はマネジメント。経営哲学から地域活性化まで、マネジメントについて幅広く研究している。担当科目はマーケティング論、経営戦略論など。



地域の活性化について“真剣に”考える

尾道市立大学 経済情報学部経済情報学科 教授
小川 長

1. 人口減少社会

（1）人口が減少することの意味

わが国の人口が、長年の増加傾向から減少傾向に転じていることは既に周知の事実である。さらに、今後一層こうした減少の勢いは増し、人口は急激に減っていくものと予想されているし、筆者も間違いなくそうなるだろうと考えている。特に、地方において減少傾向は顕著になるものとされているが、既にそうした兆しは各地で見られ、地域の将来が危ぶまれるようになっていく。

ベストセラーとなった増田（2014）¹は、そのタイトルでもある「地方消滅」という言葉を用いて、大いに地方に暮らす人たちの危機感や不安を煽り立て全国的な物議を醸し出したが、県知事や総務大臣を務めた者から「消滅都市」、「消滅可能性都市」などといった煽情的な造語を使って、「あなたの住んでいる町がなくなるかもしれない」などということを公に大言されれば、地方に住む者は誰しも不安に駆られるのは、人情として致し方のないところである²。しかし、その時は大騒ぎとなったものの結局、喉元過ぎれば熱さ忘れるの例えの如く、この本が発行されてから数年後には、あれほどの大騒動が嘘のように、多くの人の脳裡から既に「消滅都市」などという、おぞましい言葉は忘れ去られている様子である。その後も、わが国の人口は着々と減少し続けているにもかかわらず

1 増田寛也（2014）『地方消滅』中公新書

2 増田（2014）で行われている一連の刺激的な主張は、よく言えば現実を直視し、現場に危機感を持たせるための警鐘だったと言えるが、懐疑的な視点に立つと、当時における一種のショック・ドクトリンを演出するための、意図的な仕掛けだったようにも考えられる。

である。

そもそも、まずわれわれが問わなければならないこと、考えなければならないことは、果たして人口減少は悪いことなのかということだろう。もし、人口が減少することが悪いことだということであれば、逆に人口増加は良いことだということになる。それであれば、なぜ過去に間引きや姥捨てなどが行われていたのだろうか。また、なぜ今もなお堕胎が行われているのだろうか。逆に、今なお世界人口が増え続けていることは良いことなのだろうか。こうしたことを考えると人口の増減についての評価は、どちらが良くどちらが悪いといったような絶対的な評価ではなく、その時々、その社会環境との関係や、その時代特有の価値観による相対的な評価に過ぎないものとも言える。

(2) 人口は人為的に増やすことができるものなのか

そうした意味では、今からちょうど80年前に「産めよ、殖やせよ」のスローガンの下、人口増加が謳われた時期があったことが思い出される。これに関して、興味深い資料を見つけたので紹介したい。それは、昭和16年(1941年)1月16日の『朝日新聞』朝刊の第一面トップに掲載されている「日本国民悠久の発展へ 人口政策要綱案成 近く閣議に付議決定」と題された記事である³。この記事の中に、人口政策要綱案の骨子として以下のような4項目が示されている⁴。

- 一、人口増加策としては積極的に出生率の上昇をはかるため早婚奨励、結婚年齢の引下を企図、さらに一定年齢に達して結婚しない者からは独身税を徴収しこれを多子家族の表彰施策等に充当するほか、消極的には女子教育の刷新を行い出生報国の精神を涵養する。
- 二、人口減少の防策としては乳幼児の保護、結核予防、花柳病予防等に万全を期し医薬品その他の物資も乳幼児のために優先配給をする。
- 三、国土計画として都市の地方疎開を行うとともに都市人口の分散を行い更に人口源泉力たる医薬人口の一定保有をはかる。
- 四、人口政策の科学的調査研究機構を確立する。

この記事を見て、前時代的な軍国主義下の話ではないかと、一笑に付そうとする人も少なからずいるものと思われる。しかし、少し注意深く内容を確認すると、使われている言葉や表現こそ違うものの当時取り組もうとしていた内容は、現在施されている少子化政策の内容とおおよそ変わらないものであることがわかる。結婚、出産を奨励し、子育てを支援するために税金を投入する一方で、都市から地方への人口移動を促す。それに加え、人口政策のための調査研究機関を設置するとされているが、現在ではそれどころか、少子化担当大臣という一連の人口増加政策を担うための専任大臣のポストさえ設けられているのである。つまり、現在の人口政策は「少子化対策」などとスマートなネーミングはされているものの、その実は「産めよ、殖やせよ」という戦前の政策と大差がないと言えるのである。

軍国主義や、全体主義を擁護する考えなど筆者には毛頭ないが、記事に見られるように少なくとも当時の政策立案の背景には、「日本民族の悠久なる発展を期するため」という大義名分があり、その点では人口増加策の背景にある当時の国民の価値観は、ほぼ一致していたものと考えられる。さらに、「質的量的な増強をはかり、兵力並びに労力を確保せんとするにある」といった明確な目的があったことも事実である。つまり、この時期は既にヨーロッパでは第二次世界大戦の火蓋が切って

3 同年1月23日の朝日新聞は、同案が1月22日に閣議決定されたことを報じている。

4 記事の引用に当たっては旧仮名遣いを新仮名遣いに、旧字体を新字体に改めている。(以下同)

落とされ、わが国は米国の容赦ない経済封鎖によって苦境の真ただ中に立たされていた時期であり、一触即発の軍事的な緊張感に包まれた雰囲気の中で、開戦の予期に対する国民の共通した価値観が存在していたものと考えられるのである。

しかし興味深いことに、現実には人口が爆発的な増加を示し始めたのは、敗戦によって軍国主義の価値観が一掃されたのちの終戦後に訪れたベビーブームによってであった。その背景には、戦争が終わり兵役を解かれた多くの男性たちが戦地から帰還し、妻や恋人とともに暮らせるという戦火の恐れのない平和の訪れがあった。つまり、この世に人の命が誕生することは結局、国家的な計算尽くなどに拠って人為的にコントロールできるものではなく、種としての人間の性と、人間の持つ情の結果としてもたらされるものなのである。因みに、この要綱案に掲げられていた人口1億人という目標が現実のものとなったのは、終戦によって国民が全体主義から解き放され、自由主義、資本主義のもとで高度経済成長を謳歌していた1967年だったというのも歴史の皮肉であろう。

（３）なぜ人口を増やさなければならないのか

こうして考えると、現在の人口増加政策には国民的な大義名分が見当たらない。前述のように、昭和16年当時には「日本民族の悠久なる発展を期するため」という大義名分があった。当時の時代背景を考えれば、これは国民に対してかなり強い説得力を持つ理由だったと言える。しかし、現在において日本民族の悠久なる発展のためなどと言っても、時代錯誤だと一蹴されてしまうのが落ちであろう。そうすると人口を増加させなければならない大義が、現在では見つけにくい。それ故に、国民に人口増加を促す説得力も弱いと言える。

厚生労働省のホームページに公開されている、平成14年（2002年）6月に開催された「第3回少子化問題を考える懇談会」における資料1「少子化の影響と主な対策に関する整理」⁵には、少子化の影響が経済的影響と社会的影響に分けられ、以下のように示されている。

〔経済的影響〕

1. 生産年齢人口の減少と、短時間勤務を希望することの多い高齢者の割合の増加により、労働力供給の減少をもたらすおそれがあること。
2. 労働力の制約と、一般の貯蓄を取り崩すと考えられる退職者の割合の増加に伴う貯蓄率の低下と相まって投資を抑制し、労働生産性の上昇を抑制する要因になること。
3. 高齢化の進展により、年金等社会保障の分野において、現役世代の負担が増大すること。現状のまま推移した場合には、手取り所得は減少に転じるという厳しい予測もある。

〔社会的影響〕

1. 単身者や子どものいない世帯が増加し、社会の基礎的単位である家族の形態も大きく変化するとともに多様化すること。単身高齢者の増加は、介護その他の社会的扶養の必要性を高める。
2. 子ども同士の交流の機会の減少や過保護化などにより、子どもの社会性がはぐくまれにくくなるなど、子ども自身の健やかな成長への影響が懸念されること。
3. 過疎化がさらに進行し、現行の地方行政の体制のままでは、市町村によっては住民に対する基礎的なサービスの提供が困難になると懸念されること。

人口減少問題を少子化問題と見なした場合、ここに挙げられているような影響が懸念されるのは

5 <https://www.mhlw.go.jp/shin-3agi/2002/06/s0614.html>

事実である。しかし、こうした影響を食い止めるためという動機で、誰が率先的に子供を儲けようとするのだろうか。言い換えれば、こうした影響が出るということは誰しも理解できるが、では、それを解消しようという理由で、自ら進んで子供を儲けようと思う人など果たしているのだろうかということである。さらに、もう一つの疑問は、少子化によって生じる社会的な影響として単身者や子供のいない世帯の増加、子供（つまり、人々）の社会性が育まれにくくなることなどと列挙されているが、実際には、それらは社会的な価値観の変化や科学技術の進展によってもたらされた国民の意識の変化によって生じた生活スタイルの変容であり、それが少子化の影響だと言うよりも逆に、こうした社会的な変容こそが、少子化が進んでいる本質的な原因なのではないだろうか。筆者には、そもそもこの因果が取り違えられているように思えてならないのである。

昭和16年の人口政策要綱案に関連した、「一家庭に平均五児を」という同年2月23日の朝日新聞の記事の中にある、「農村のたくましい出生率に引換え大都市のそれは甚だ振るわないのは何に起因すると思うかね。従来の西欧文明に蝕まれ個人主義、自由主義の都会的性格がいけないのだ。自己本位の生活を中心にし子宝の多いことを避ける都会人の多いことは全く遺憾至極だ」という主張は興味深い。なぜなら、それが増田（2014）で主張されていた、現在の政府の人口増加策の目玉でもある、都会から地方へと若者の移住を促そうという内容とオーバーラップするからである。さらに80年前の記事で、既に西欧的な都会風の生活スタイルが槍玉に上げられ、その背景にある個人主義や自由主義が出生率低下の真因であると非難されていることにも興味を惹かれる。軍国主義、全体主義への傾斜が強まる当時の時代背景を考えると、その対極にある個人主義や自由主義が敵対視されているのは仕方ないことだったろうが、それらの生活スタイルへの反映が出生率低下の真因であるという指摘は、現在の状況に照らし合わせると、的を外しているとは言い難い。

例えば、内閣府が行っている平成25年度の「少子化社会対策大綱の見直しに向けた意識調査」の報告書を見ると⁶、子供のいない20歳から59歳までの回答者（n=5,138）のうち子供を持つことを望んでいない人の割合は40.5%、その中の49歳以下の既婚者（n=988）では35.7%となっている。さらに、子供がおらず子供を持つことを望んでいない回答者（n=2,083）に望まない理由を聞いたところ（複数回答）、「経済的な制約が増える」（34.4%）、「親になることが不安、子育てに自信が持てそうにない」（31.3%）、「適当な相手がいない」（25.6%）、「今の生活レベルを維持したい」（23.1%）、「出産のリスクが心配（子供の先天性異常や妊娠・出産時のトラブルなど）」（19.9%）、「自分の時間や、パートナーと二人の時間を失いたくない」（19.2%）などが主な理由として挙げられている。こうした回答の傾向は、まさに豊かな時代の自由主義的、個人主義的な考え方を反映したものであると言えよう⁷。それだからと言って、今の時代において戦前のように、こうした考え方を非難したり糾弾したりすることができないことは言うまでもない。個人主義、すなわち個々人の意思の尊重は、自由主義社会の根本原則なのである。

多少、回りくどくなってしまったが、こうして考えてみると現在の少子化は、自由主義社会と経済的繁栄がもたらす必然的な帰結だと言うことができる⁸。これに、これまで長期間にわたって施さ

6 https://www8.cao.go.jp/shoushi/shoushika/research/h25/taiko/index_pdf.html

7 本報告書には、結婚に関するアンケート結果も掲載されているが、その内容を見ると、やはりこうした傾向を読み取ることができる。

8 その他にも、科学技術の進展の影響も大きいと考えられ、それによってもたらされた長寿化やIT化なども複合的に少子化に影響していると筆者は考えているが、紙幅の関係でここに記すことは控えたい。しかし、いずれにしても、一方で、これまでわれわれが「進歩」と呼んで歓迎してきた技術の発展の光の部分の裏側にある、必然的な影の部分だと言えるのかもしれない。

れてきた様々な少子化対策がほとんど功を成していない事実を併せて鑑みると、もはや少子化に抗うよりも、少子化を前提に政策を考えていかなければならない段階に入っているものと言えよう。

2. 人口減少と地域活性化

(1) カネで人を呼ぶ

では、こうした人口減少を踏まえた時に、地域活性化をどのように考えたらよいのであろうか。もし、地域の人口の増加が地域活性化の前提条件だとすれば、地域の人口が減っていくというのはその基盤が失われるということであるので、何としても地域の人口を増やさなければならないということになる。だから、人口を増やすために、これまで様々な取組が行われてきたのである。しかし残念ながら、そのほとんどが功を奏しているようには見えない。

では、なぜ上手くいかないのだろうか。端的に言えば、その一番の理由はカネで頭数を集めようとしていることにありと筆者は考えている。調べてみると、これまで政府を始め、各地方公共団体等において補助金、助成金、手当、祝金などと名付けられた様々な種類の多額な公的資金が、地域人口増加のために投入されている。それらが全く功を奏していないと言うつもりはないが、カネで動いた人の多くは結局、その後もカネで動く傾向がある。つまり、カネの切れ目が縁の切れ目という言葉があるように、カネで入ってきた人は、カネで出ていく可能性も高いと考えられる。そもそも、カネがものを言うのであれば、持っているカネが少ない数多くの小さな自治体には、到底勝ち目がないということになる。つまり、そうしたことに公的な資金を回す余裕のない自治体や、なけなしの資金を投入している自治体には所詮、この問題は解決できないということになるのである。

(2) ないものはない

では所詮、カネのない小さな町は、カネのある大きな町には敵わないということなのだろうか。この疑問に対して、「敵わないと思うから敵わない」のであると答えたい。つまり、他の町と比べるから、わが町の劣っているところばかりが目につくのである。その結果、他の町にあるものがわが町にないと思い、それがわが町にもなければ何ともならないと思い込んでしまうから、それを取り繕おうと無駄なカネを使い、余計に疲弊してしまうという悪循環に陥るのである。

「ないものはない」。このフレーズを聞いて、島根県の隠岐諸島にある人口2,200人の島、海士町を思い浮べる人もいるのではないだろうか。それほど、地域活性化の事例として海士町は有名な町(島)である⁹。インターネットで海士町のホームページを開くと、いきなり「コンビニない。デパートない。シネマない。」「ないものはない、海士町」という文字が躍る。考えてみれば、町民2,200人の島にデパートやシネマがある訳はないのであるが、海士町はそれを「ないものはない」と堂々と言い放っているのである。

なるほど、「ないものはない」というのは意味深い言葉である。それは、自分(わが町)の真の姿を直視できた者の言葉である。それは、わが町には無いものが(たくさん)あるが、その無いという事実を真摯に受け入れる姿勢であり、それを受け入れることができれば、他の町に有るからと言って、ないものねだりすることの無理や無意味さが自覚できるようになる。わが町に無いものは無い

9 海士町を事例に取り上げた地域活性化に関する文献は多い。例えば、富沢木実(2013)「海士町にみる「地域づくり」の本質」、『地域イノベーション』第5巻などは参考になる。

のだという了解は、しかし有るものが有るではないかという重要な気付きに通じる。そして、では何が有るのだろうか、わが町に有るものを丁寧に見直す新しい視点を手に入れることができる。さらに、わが町には有るものしかないのだから、それを活かすしか道がないという覚悟が生まれ、その有るものをどう活かして、どう使っていけばよいかという工夫が生まれる。こうして考えると「ないものはない」と悟ることは、地域活性化の新しい視点に立った自由な発想への扉を開くことだと言える。なぜなら、ないものねだりに囚われて雁字搦めになるよりも、「有るものを活かしてできることをする」ということに集中すれば、前向きな知恵が生まれるからである。つまり、「ないものはない」という潔さによって、その地域に有るものの良さが見出され、それを使って創り出される地域の独自性を持った新しい価値が、多くの人の心を惹くのである。

3. 地域活性化のための人材の育成

(1) 居ない人は居ない

実は、「ないものはない」という言葉の意味は、地域の資源に限ったことではない。地域に暮らす人についても同じことが言える。それどころか、他者には替え難い個々の人こそが地域の最大の資源だと言える。それぞれの地域には、そこに住んでいる人々がいる。言い換えれば、そこに居ない人は、そこには居ないのである。例えば、世に名を轟かせるような有名人はわが町にはいないかもしれないし、世界を相手に大立ち回りをするような傑物もいないかもしれない。わが町には、何かに傑出した能力を持った人などいないという町がほとんどだろうし、それが普通である。つまり、数多くの町は普通の町であり、それぞれの町で暮らしている大多数の人たちは、それぞれが普通の人たちなのである。多くの町は、昔から普通の人たちが集まって暮らしてきた町なのであり、今もそうした人たちが穏やかに暮らす町なのである。

しかし、その普通の人たちは実は一人ひとり違う人たちであり、ほとんどの人は特殊な能力は持ってはいないものの、魅力的な個性を持った人たちなのである。ないものはないのだと悟る一方で、しかし有るものは有るのだから、その有るものを使って魅力あるまちづくりを目指すというのと同じ筋道で、居る人たちによって魅力あるまちづくりを目指すことができると筆者は考えている。

(2) 人が人を呼ぶ

では、その地域に居る人たちが創り出すことができる魅力とは何だろうか。潤沢なカネなどない地域で、特殊な能力など持ち合わせていない人たちによって創り出すことができる魅力などあるのだろうか。それには、まず魅力とは何かということを考えてみなければならない。いくつかの辞典で「魅力」という言葉を調べると、およそ「人をひきつけ夢中にさせる力」（日本国語大辞典）といった意味が記されている。これをより具体的に考えてみると、あるものが魅力的であるためには、まず、その人にとって「好ましいもの」でなければならないだろう。なぜなら、その人にとって好ましくないものが魅力的だとは考えにくい。しかし、好ましいものならばすべて魅力的かという、そうとは言い難い。魅力的であるためには、好ましいものであることに加えて「希少なもの」でなければならないのではないだろうか。たとえ好ましいものであっても、それがごく一般的なものであったり、あまりにも身近なものだったりすると、われわれはそれを魅力的には感じにくい。

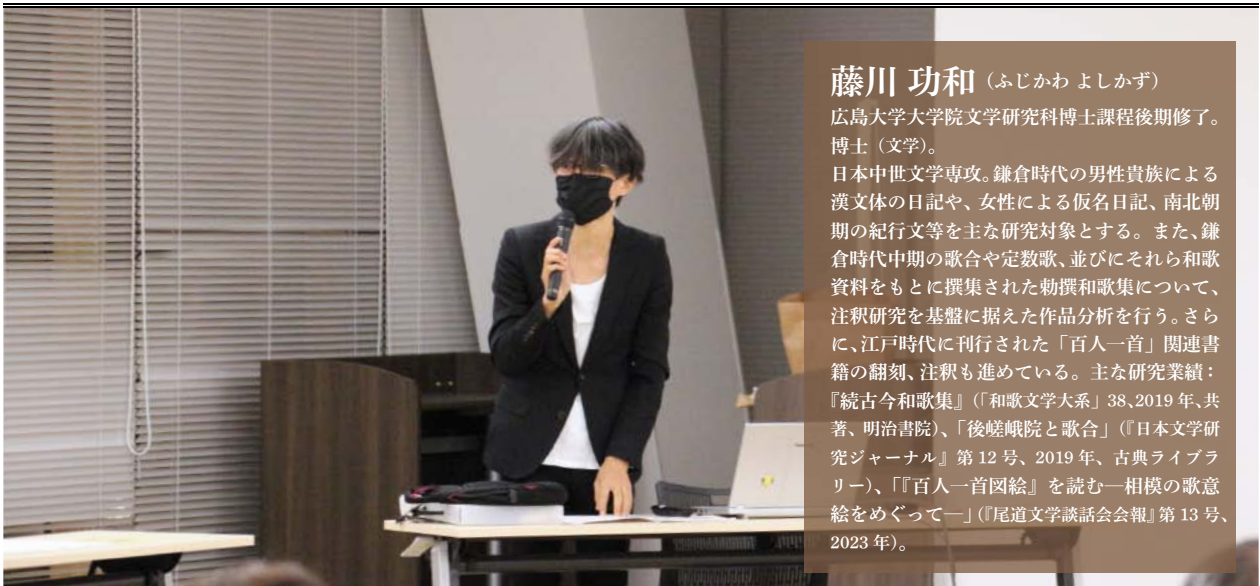
さて、こう考えた時に今、地域において希少なものは何だろう。筆者は今、地域で最も希薄になりつつあるものは、人と人との温かな関係ではないかと考えている。人と人との関係と言っても、

ここで言いたいのは、決して複雑な人間関係などではない。ともに仲良く暮らす。ともに明るく暮らす。困っている人があれば手を差し延べる。困っていれば助けてもらう。ともに相手のことも思い遣る。ともに地域のことを考える。ともに助け合う。ともに生きる¹⁰。といった、ごく当たり前の温かみのある人と人との結びつきのことである。今、こうした当たり前の人と人との関係が希薄になりつつあると思えてならないのは、筆者だけであろうか。もし多くの地域において、こうした結びつきが薄らいできているとすれば、人と人との温かな関係が息づいている地域というのは希少性を帯びてくるはずである。こうした関係が好ましいものであるにもかかわらず、希少なものとなりつつあるのであれば、これがその地域の大きな魅力になると筆者は考えている。

（３）温かみある地域の関係を紡ぐ人

つまり、こうした関係を修復していく人、紡いでいく人、作り上げていく人こそが今、地域に必要な人材なのであり、そうした人を大切にしていくこと、育てていくことが地域にとって重要な課題なのである。例えば、その人が企業家であれ、社会活動家であれ、ボランティアであれ、商業者であれ、農業従事者であれ、公務員であれ、こうした地域の人と人との関係づくりに貢献する人ならば、そういう人こそ今、望むべき地域の人材だと言える。さらに、こうした人材が貴重なのは、彼女（彼）による関係づくりによって、その人に続く人材が数珠繋ぎに生まれてくる可能性が高いところにもある。人口減少時代に地域活性化を担っていく人材とは、こうした地域の温かみのある人間関係を築く意欲と実行力を持つ人なのではないだろうか。

10 例えば、読者がこうして列挙したことを幼稚で馬鹿馬鹿しいと感じるならば、次のように、すべて逆に言い換えてみるとよい。「ともに仲悪く暮らす。ともに暗く暮らす。困っている人がいても手を貸さない。困っていても助けてもらえない。ともに相手のことなど考えない。ともに地域のことなど考えない。ともに助け合わない。ともに生きようなどとは思わない」。そのような社会など、想像するだけで恐ろしいはずである。



藤川 功和（ふじかわ よしかず）

広島大学大学院文学研究科博士課程後期修了。博士（文学）。

日本中世文学専攻。鎌倉時代の男性貴族による漢文体の日記や、女性による仮名日記、南北朝期の紀行文等を主な研究対象とする。また、鎌倉時代中期の歌合や定数歌、並びにそれら和歌資料をもとに撰集された勅撰和歌集について、注釈研究を基盤に据えた作品分析を行う。さらに、江戸時代に刊行された「百人一首」関連書籍の翻刻、注釈も進めている。主な研究業績：『続古今和歌集』（『和歌文学大系』38、2019年、共著、明治書院）、「後嵯峨院と歌合」（『日本文学研究ジャーナル』第12号、2019年、古典ライブラリー）、「『百人一首図絵』を読む―相模の歌意絵をめぐる―」（『尾道文学談話会会報』第13号、2023年）。

〔要旨〕

「水曜連歌でしょう」始末記

—教養講座実施報告 付、 尾道市立大学附属図書館蔵「賦何人連歌」紹介—

尾道市立大学芸術文化学部日本文学科教授
藤川 功和

令和四年度の教養講座を担当するにあたり、稿者の専門領域である中世文学において大きな位置を占める連歌を取り上げることとした。

講座では、まず連歌の初発について、『日本書紀』や、勅撰集『金葉和歌集』が収載する短連歌等を引用しつつ概観し、次に藤原定家の日記『明月記』等から鎌倉期における長連歌の流行について確認した。その上で、『筑波問答』や『連歌比況集』といった連歌師による著作から連歌の行様や句の付け方に関する言説を抑え、百韻連歌の一つの到達点として著名な『水無瀬三吟百韻』の表八句の読解と百韻の付け合いや行き様の確認を通して、連歌の面白さを受講者と共有することを目指した。

講座の実施に先立って、近年連歌を教材として積極的に活用する試みが高等学校の教育現場等でなされていることを念頭に（注1）、『水無瀬三吟百韻』中の「冬がれのあしたづわびてたてる江に」（三の懐紙表、初句・宗祇）を前句として句を付けて、事前にデータ送信することを受講者に求めた。以下、寄せられた句を作者の名前は伏せて摘出してみよう（一人で複数の句を付けた受講者もいる）。

- ・ 朝陽も弱く光を放つ
- ・ 夫婦寄り添い生きる喜び
- ・ 清々しさが二度と戻らず
- ・ 永の別れか彼の名忘れじ
- ・ 見るによろしき城の石垣

- ・ 寄り添う鴨の親子が来たり
- ・ 昨夜の君の笑顔浮かびく
- ・ 遠くに見ゆる釣り船の影
- ・ 日々恋しさのつのがりて寂し
- ・ 春の川面を想いて待てり
- ・ 微かに聞こゆエンジンの音
- ・ 母の笑顔が川面に浮かぶ
- ・ 大浪小波今日も寄せくる

実際に寄せられた句を見渡すと、「遠くに見ゆる釣り船の影」「春の川面を想いて待てり」「母の笑顔が川面に浮かぶ」「大浪小波今日も寄せくる」等、前句の「江」に寄せた句や、「夫婦寄り添い生きる喜び」、「母の笑顔が川面に浮かぶ」のように雑へと転じる句、また、「昨夜の君の笑顔浮かびく」、「日々恋しさのつのがりて寂し」のように恋へと転じる句等が見えた。

一方、「微かに聞こゆエンジンの音」等は、前句の視覚的情景句を、聴覚表現で転じており、『水無瀬三吟百韻』で宗長の「川かぜに一むら柳春みえて」（初懐紙表、第三句）に対して、宗祇が「舟さすおとはしるき明がた」と付けたように、当時の連歌師の句の付け方を彷彿とさせる句が寄せられた（注2）。

さらに、当日は、新たに本学図書館に収められた連歌懐紙の写本の展示を併せて行い、連衆の句が料紙狭しと連なっている様子を受講者に確認していただいた（注3）。

連歌が盛んだった南北朝期に記された今川了俊の紀行文『道行きぶり』に、当時の向島を「歌島」と称していたことを伝える記事が見えるが（注4）、厳島神社所蔵の経巻の内、『大集経』の料紙には歌島公文家で書写されたと思しき連歌の懐紙が用いられており、「尾道浦や歌島あたりでもすでに鎌倉後・末期に連歌のたしなみをもつものがいたということを物語る」と指摘される（注5）など、尾道においても連歌は慥かに享受されていた。

福岡県行橋市では、室町時代に地元の今井祇園祭で連歌が奉納されたことから、「全国で唯一、室町時代から連歌が続いているまち」として、毎年連歌を学ぶ市民講座や連歌大会が開催されている（注6）。今回の講座を機に、尾道でも再び連歌に注目が集まれば幸いである。

（注）

- 1 黒岩 淳氏『連歌を楽しむ 鑑賞と創作入門』（溪水社・令和2年）、『連歌と国語教育一座の文学の魅力とその可能性―』（同・令和4年）等参照。
また、コロナ禍における大学のオンライン授業で、受講者が連歌を実践する講義も確認される。聖徳大学文学部「オンライン授業も楽しく一みんなて連歌を詠もう―」（<https://faculty.seitoku.ac.jp/literature/2020/10/12/news-68/>）参照。
- 2 『水無瀬三吟百韻』では、肖柏が「夕しほかぜのとほつふな人」と付け、「冬枯れの入江に立つ蘆鶴を遠景に移して、潮風に吹かれている舟人の姿を配した」「印象鮮明な句」（『新潮古典集成』注）となっている。
- 3 尾道市立大学附属図書館蔵「正保四年三月 賦何人連歌」。
発句と脇句は以下の通り。
賦何人連歌
さしかはす枝や一重も八重桜 忠次

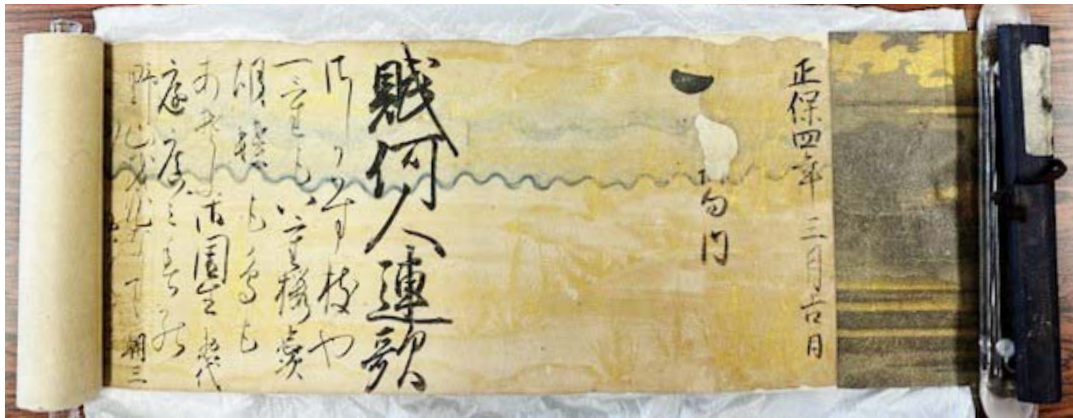
胡蝶も鳥もあそふ御園生 惣代

発句は、榊原忠次の連歌発句集に以下の如く確認される（本文は日本文学 web 図書館連歌大観による）。

江戸湯島天神別当喜見院万句の発句とて、桜の題にて所望

さしかはす枝や一重も八重桜

忠次は慶長十年（1605）に忠政の子として生まれ、徳川四天王のひとりであった康政の孫にあたる。館林・白河・姫路藩主を歴任し、寛文五年（1665）に六十一歳で没している。



- 4 「昔、この所を領じける人、和歌の道にすける心深きあまりに、おり立つ田子、入りぬる海人までも、歌をなむよませつつ、もて興じけるより、やがて、この所を歌の島といふとぞ」（今川了俊『道行きぶり』、小学館「新編日本古典文学全集」による）
- 5 『向島町史 通史編』（平成12年 向島町史編さん委員会）第2編歴史・第2章中世・五鎌倉後・末期の歌島文芸より
- 6 行橋市 HP 参照。

令和3（2021）年度 教養講座カリキュラム

回	日 時	演 題	講 師
第1回	10月25日～10月31日 ケーブルテレビ放送	小泉八雲「飴を買う女」と、尾道の 「丹花の飴買い幽霊」	尾道市立大学 日本文学科教授 光原 百合
第2回	11月1日～11月7日 ケーブルテレビ放送	災害リスク管理と居住地の再編	尾道市立大学 経済情報学科准教授 堀江 進也
第3回	11月29日～12月5日 ケーブルテレビ放送	方言のもつ現代的な意味と機能 －「おのみちしぐさ」で考えたこと－	尾道市立大学 日本文学科教授 灰谷 謙二

※令和3年度はケーブルテレビ放送のため、アンケートは実施していません。

令和4（2022）年度 教養講座カリキュラム

回	日 時	演 題	講 師
第1回	10月12日（水）	箔と砂子のはなし	尾道市立大学 美術学科准教授 鈴木 恵麻
第2回	10月21日（金）	地域の活性化について“真剣に”考える	尾道市立大学 経済情報学科教授 小川 長
第3回	11月2日（水）	水曜 連歌でしょう	尾道市立大学 日本文学科教授 藤川 功和

令和4（2022）年度 教養講座アンケート集計

尾道市立大学 教養講座（第1回）	
日 時	令和4（2022）年10月12日（水）18：30～20：00
会 場	尾道市役所 2階 多目的スペース1

演 題	箔と砂子のはなし
講 師	鈴木 恵麻（尾道市立大学美術学科准教授）
講座の概要	調度品やお菓子など普段の生活で意外と身近に存在する「箔」。今回は日本画の表現技法で用いられる「箔」、そしてその技法の一つである「砂子」について、実際に技法も体験していただきながらご紹介します。

〈受講者アンケート掲載項目〉

参加者数	22名
アンケート回答者（回収率）	20名（91％）

講座について				
とても良かった	良かった	ふつう	あまり面白くなかった	面白くなかった
13	4	0	0	0

☆講座の良かった点、改善すべき点（抜粋）

- ・実習ができたので一緒に参加している方の作品も少し見ることができ楽しめました。（30代女性）
- ・使用スライドの配布資料が必要と感じました。レーザーポインターを使用しながら進行して欲しかった。（60代男性）
- ・絵が好きで、実習もあって楽しかったです。（70代女性）
- ・レクチャーと演習と2部に分けられたこと、解りやすくて良かった。（60代男性）
- ・前半説明、後半実技とバランスよく。よかったけど実技に少し時間が欲しかった。（50代女性）
- ・ひとつひとつわかりやすいご説明と、後半の実技がバランスよく、理解しやすかったです。ありがとうございました。（60代女性）
- ・広く知られている作品や建築物で時代を追って説明いただき、とても解り易かったです。体験も、作品を作るみたいで楽しかったです。（50代女性）
- ・箔の歴史や工程の説明を聴かせていただいてからの実習が、作家さんの思いを体験できて、貴重な体験になりました。（40代女性）
- ・金箔について、楽しみができました。（80代～女性）
- ・実技を含んだ講座だったので面白かったです。削り出しは初めて体験しましたが、上手くできて良かったです。（20代女性）
- ・こすり出しがおもしろかった。高価な箔を使わせてもらって、ありがとうございます！（50代女性）
- ・実技が興味深い。もう少し大きい作品にチャレンジしたくなりました。お手伝いされる方（助手）はいないのですか？（60代女性）

- ・実習がとても良かった。講義との2段階になっているところも集中が途切れず、良かった。講義のスライド資料があると、復習にもつかえてよいかも。(40代女性)

★ご意見・ご感想（抜粋）

- ・実習もとても楽しかったです。(30代女性)
- ・大学内で実施してもよいかも（資材・工具等のため）。(60代男性)
- ・大変勉強になりました。ありがとうございます。(60代女性)
- ・とても楽しかった。また美術系のものを体験したいです。ありがとうございました。(50代女性)
- ・日本文化と箔のつながりを改めて知ることができた。(60代女性)
- ・楽しく勉強させていただきました。ありがとうございました。(70代女性)
- ・アンケートの今後受けてみたい講座を集計し、多く希望がある物を優先的にやってほしい。(40代女性)

令和4（2022）年度 教養講座アンケート集計

尾道市立大学 教養講座（第2回）	
日 時	令和4（2022）年10月21日（金）18：30～20：00
会 場	尾道市役所 2階 多目的スペース1

演 題	地域の活性化について“真剣に”考える
講 師	小川 長（尾道市立大学経済情報学科教授）
講座の概要	これまでの研究成果に基づいて、渾身の知恵と情熱を込めて地域活性化について語り、みなさまとの熱い議論を巻き起こしたいと思います。

〈受講者アンケート掲載項目〉

参加者数	24名
アンケート回答者（回収率）	19名（79%）

講座について				
とても良かった	良かった	ふつう	あまり面白くなかった	面白くなかった
11	5	2	0	0

☆講座の良かった点、改善すべき点

- ・教授が一方的にお話しなさる、というのは教授の素を垣間見られたような気がしてある意味興味深かった。（10代男性）
- ・今まで教えられていないことを知れたことが良かったと思います。（10代女性）
- ・多くの話をしてくださったので知識が広がりました。（10代女性）
- ・自分のためになる時間でした。（10代男性）
- ・人とのつながりを改めて考えることができました。（10代男性）
- ・活性化について大切なこと、いろんなことをたくさん知れてとても知識がつけました。（10代女性）
- ・興味深い所の活性化について学べた。70才を過ぎ、今後身近な単位の人を大切に、地域と共に生きていきたいと気付いた。（70代男性）
- ・頭の中の整理ができた。（60代男性）

★ご意見・ご感想（抜粋）

- ・私が小中学生の頃から考えていたことの過半数は教授が本日仰ったことと同じことであり自信を持てた。多角的な視点を持つことは大切である。（10代男性）
- ・地域とは、人との関わりによって作られていくものだということが分かりました。インターネットの普及により、人との関わりがうすれていくなかで、自分達がどうしていきべきかを考えさせられました。（10代女性）
- ・おもしろかったです。（10代女性）
- ・貴重なお時間ありがとうございました。（10代男性）
- ・ありがとうございました。（10代男性）

- ・活性化をするのではなく地域をこれからも継続することが大切なのだと分かりました。(10代女性)
- ・お話が物語のように没入していくような感覚だった。その中で、問題点や今後どうしていくべきかの提案があった。重要な有益な時間であった。《人を幸せにする所にお金が返ってくる》(60代男性)
- ・とても良かったです。又、お聞きしたいです。(60代女性)
- ・経済の活性化は金もうけ、社会の活性化はコンプライアンスかもしれない。両方の活性化で、楽しく働きやすく、明るい社会ができるのかな？ 利益はありがたいと言っていた数！(60代男性)
- ・もっと尾道の具体的な話を聞きたかった。(40代男性)
- ・もう少し実際の研究の内容などを聞きたかった。あまりにマクロな話に終始し、具体性がなかった。(30代男性)
- ・貴重なお時間ありがとうございました。尾道の良さをより深く知ることができたと思います。(10代女性)

令和4（2022）年度 教養講座アンケート集計

尾道市立大学 教養講座（第3回）	
日 時	令和4（2022）年11月2日（水）18：30～20：00
会 場	尾道市役所 2階 多目的スペース1

演 題	水曜 連歌でしょう
講 師	藤川 功和（尾道市立大学日本文学科教授）
講座の概要	連歌（れんが）は、5・7・5の句と7・7の句を連ねた形態の文芸で、鎌倉時代から江戸時代初期にかけて愛好されました。その後は俳句にとって変わられた感もありますが、その文芸形態の特性とも相まって、近年再び脚光を浴びつつあるようです。今回は古い連歌懐紙も御覧いただきながら、週の半ばの水曜日のひととき、連歌の魅力について考えてみたいと思います。

〈受講者アンケート掲載項目〉

参加者数	17名
アンケート回答者（回収率）	15名（88％）

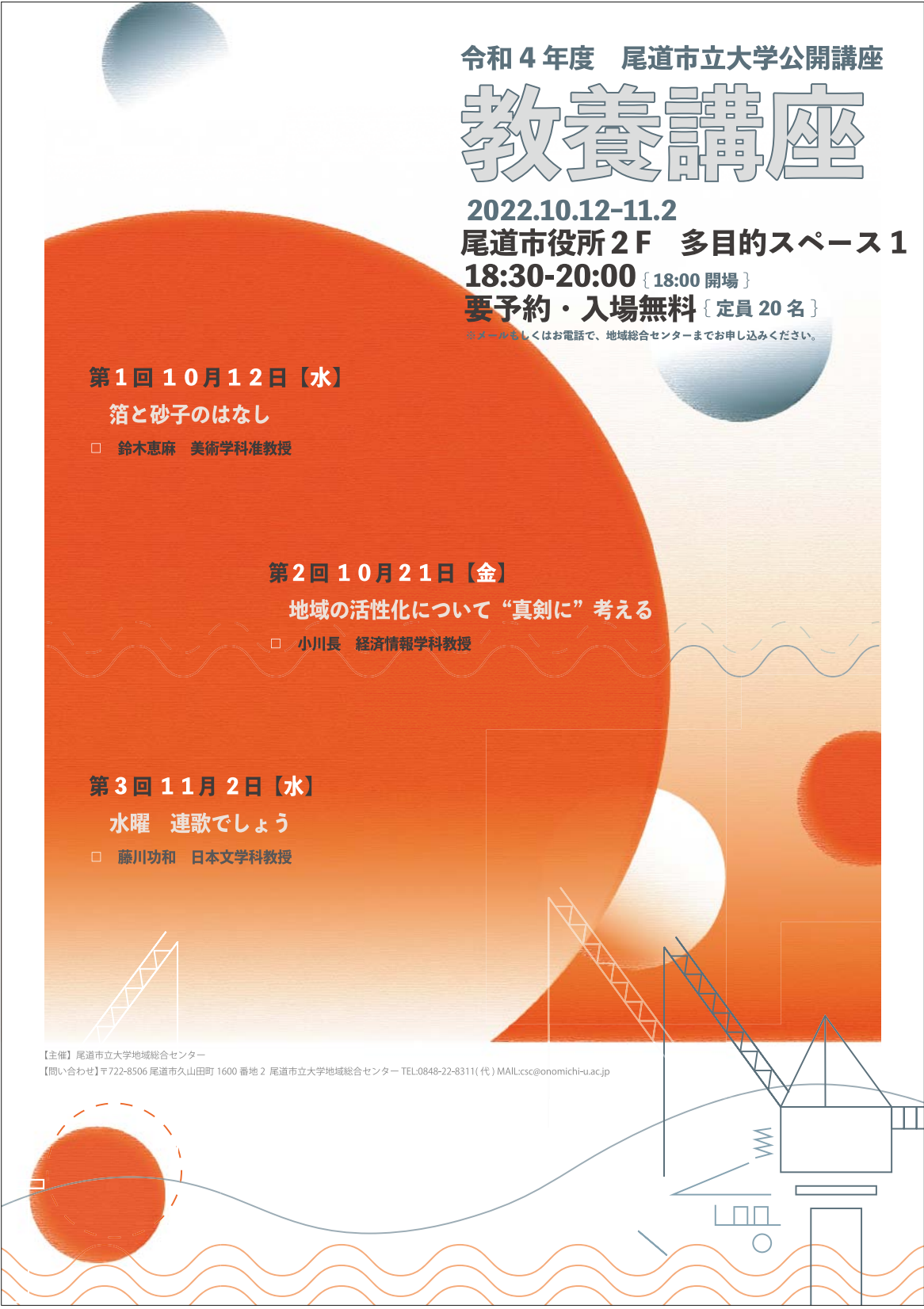
講座について				
とても良かった	良かった	ふつう	あまり面白くなかった	面白くなかった
10	0	0	0	0

☆講座の良かった点、改善すべき点

- ・連歌についてほとんど知識がなかったのでとても楽しい講義でした（40代女性）
- ・最初のうちははっきりしたルールなく、だらだら感をふせぐためにそういったルールがつけられていったというのがおもしろく思われます。（30代女性）
- ・長連歌の迫力を感じました（80代女性）
- ・連歌に接する機会がなかったのですが、とてもわかり易く楽しかった。（50代女性）
- ・短歌 連歌の事が良くわかっていない私にもわかりやすく、ていねいに話してくださいました。ありがとうございました。（60代女性）
- ・会場の場所がとても分かりづらかった。私の他にも市職員の方に聞かれたり困っておられました。先生のお話はとても興味深く、また資料に色をつけて下さっていたのがとても趣がありました。（50代女性）

★ご意見・ご感想（抜粋）

- ・連歌についてまとまった知識が得られた（80代男性）



令和4年度 尾道市立大学公開講座

教養講座

2022.10.12-11.2
尾道市役所2F 多目的スペース1
18:30-20:00 {18:00 開場}
要予約・入場無料 {定員20名}
※メールもしくはお電話で、地域総合センターまでお申し込みください。

第1回 10月12日【水】
箔と砂子のはなし
□ 鈴木恵麻 美術学科准教授

第2回 10月21日【金】
地域の活性化について“真剣に”考える
□ 小川長 経済情報学科教授

第3回 11月2日【水】
水曜 連歌でしょう
□ 藤川功和 日本文学科教授

【主催】 尾道市立大学地域総合センター
【問い合わせ】〒722-8506 尾道市久山田町 1600 番地 2 尾道市立大学地域総合センター TEL:0848-22-8311(代) MAIL:csc@onomichi-u.ac.jp

令和 3（2021）年度 コンピュータ公開講座アンケート集計

尾道市立大学 コンピュータ公開講座（令和 3 年度）	
日 時	令和 4（2022）年 2 月 5 日（土）13：00～15：00
会 場	オンライン（Zoom）

演 題	EXCEL を用いたデータ分析実践
講 師	金田 陸幸（尾道市立大学経済情報学科准教授）
対 象	一般・学生・教職員（オンライン受講可能な中学生以上）
受講料	無料
講座の概要	現在の社会には様々なデータが存在しますが、データを実際にどのように活用すればいいのでしょうか。活用法の一つとしてデータの因果関係を実証的に示すことが挙げられます。データの因果関係を明確にすることは、様々な発表の場で自身の仮説に説得力を持たせることに繋がります。そこで本講座では EXCEL を使い、記述統計の算出、単回帰分析と重回帰分析を実際に行うだけでなく、分析結果とその解釈について講義を行います。

〈受講者アンケート掲載項目〉

参加者数	12 名
アンケート回答者（回収率）	12 名（100%）

講座について				
とても良かった	良かった	ふつう	あまり面白くなかった	面白くなかった
6	6	0	0	0

☆ご意見・ご感想（抜粋）

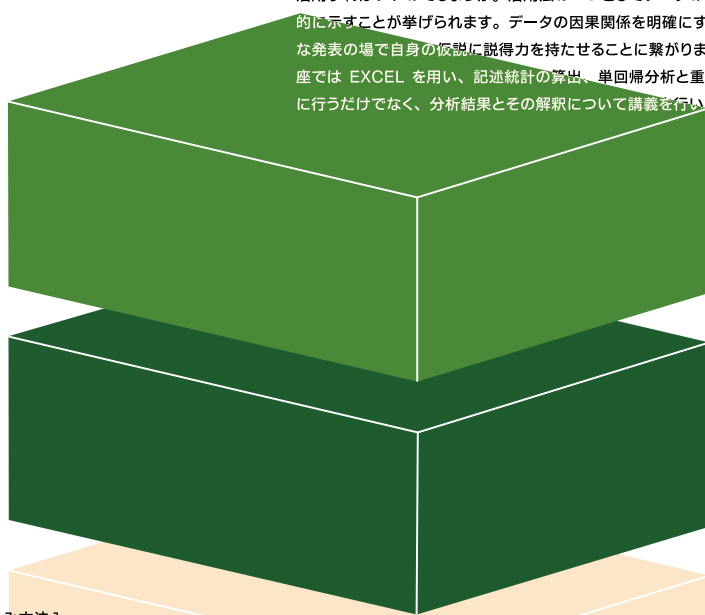
- ・ありがとうございました。（50 代）
- ・このような機会をいただき、ありがとうございました！（30 代）
- ・ディスカッションできるような講座も検討していただきたい。（50 代）
- ・統計には興味があって本を買っていたりしたが読んでいてもわかりにくかったので、今日は初歩のところ、特に Excel を使って説明いただいたので、非常にわかりやすかった。例題を再現しようにも良い事例がないため、自分だけでは Excel の作業も出来ずに、機能を眺めるだけだった。実際に自分で調べてみたいことを作業してみたいと思います。（40 代）
- ・貴学で統計学を専攻し、卒業したので懐かしい気持ちで受講できました。（20 代）
- ・もっと学びたいと思いました。引き続きよろしくお願いいたします。ありがとうございました。（40 代）
- ・とても勉強になりました。ありがとうございました。（30 代）
- ・多くのことが学べた。（10 代）
- ・解釈しやすい説明でした。（50 代）
- ・とても分かりやすい説明で、理解しやすかったです。（10 代）
- ・残念なのは、最後の重回帰分析のところが駆け足だったところです。（20 代）
- ・良かった点 わかりやすくコンパクトにまとめていたところ、回帰分析のところをもっと時間をかけてほしかったです。（40 代）
- ・具体的で、すぐに活用出来そうと思わせてくださった。（30 代）
- ・とても分かりやすかったです。店舗の経営・マーケティングに使えるような、より実践的な講座もあれば受けてみたいです。（30 代）

2021年度 尾道市立大学コンピュータ公開講座

EXCELを用

いたデータ分析実践

現在の社会には様々なデータが存在しますが、データを実際にどのように活用すればいいのでしょうか。活用法の一つとしてデータの因果関係を実証的に示すことが挙げられます。データの因果関係を明確にすることは、様々な発表の場で自身の仮説に説得力を持たせることに繋がります。そこで本講座では EXCEL を使い、記述統計の算出、単回帰分析と重回帰分析を実際に行うだけでなく、分析結果とその解釈について講義を行います。



【お申込み方法】

下記 QR コードの申込フォームに必要事項を入力の上、送信してください。

【申込期限】2月2日（水）

- ・裏面等『受講の手引き』をご覧ください、「Zoom」がご利用になれるか事前に確認のうえ、お申込みください。
- ・電話・FAX・ハガキ等では申込みできませんのでご注意ください。
- ・申込み本人以外の受講はおことわりしますので、参加申し込みは一人ひとりお願いします。
- ・申込み後、登録された返信用メールアドレスに、申込み内容を送信します。

もし、送られてこない場合は、迷惑メールのフォルダに届いている、またはメールアドレスの誤入力などの可能性があります。まずは、迷惑メールのフォルダなどを確認してください。

それでもメールを受信していない場合は、「onomichi-u.ac.jp」からのメールを受信できるパソコン用メールアドレスで、再度申込みをしてください。

2022.2.5 (土) 13:00-15:00 (入室 12:30)

オンライン (Zoom)

金田 陸幸 (尾道市立大学 経済情報学部 准教授)

【対象】どなたでも (オンライン受講可能な中学生以上)

＊ Windows パソコン (Microsoft Office が利用可能)、
インターネット環境を各自ご準備ください

【定員】20 名 (応募者多数の場合は抽選)

【受講料】無料



令和4（2022）年度 コンピュータ公開講座アンケート集計

尾道市立大学 コンピュータ公開講座（令和4年度）	
日 時	令和5（2023）年3月4日（土）13：00～15：00
会 場	オンライン（Zoom）

演 題	EXCELで効果検証～因果推論入門～
講 師	井本 伸（尾道市立大学経済情報学科教授）
対 象	どなたでも（オンライン受講可能な中学生以上）
受講料	無料
講座の概要	世の中には様々な因果関係、すなわち原因と結果の関係が存在します。因果推論とは、この原因と結果の関係を推し量ることです。ある施策が“効果がある”というためには、データを用いて定量的に検証しなければなりません。 その際に用いられるのが統計的因果推論であり、その中で最も基本的な手法が“平均の差の検定”です。この講座では、EXCELを用いて“平均の差の検定”を行う方法を学び、その結果の解釈や具体例・実践方法について講義を行います。

〈受講者アンケート掲載項目〉

参加者数	10名
アンケート回答者（回収率）	8名（80%）

講座について				
とても良かった	良かった	ふつう	あまり面白くなかった	面白くなかった
5	3	0	0	0

☆講座のよかった点・改善すべき点（抜粋）

- ・自宅で受講できるのは良かったです。（60代男性）
- ・計算ができなくてもExcelがやってくれることがわかり、よかった。アドオン設定は事前に知りたかったけどもしかしてメールに記載があったのかもしれない。（40代女性）
- ・講座の資料は事前に配布されるとありがたいです。（70代男性）
- ・エクセルで比較的簡単にデータ分析ができるとわかり、大変参考になりました。今後習熟して、ぜひデータ処理に使ってみたいと思います。データの取り扱い方（比較対象にどのデータを使うのが適切かなど）の具体的な説明が欲しかったかなと思います。（40代女性）
- ・中学生の私にもとても分かりやすかったです。シグマ記号を知らなかったのも、少し戸惑いました。（10代女性）
- ・統計学をビジュアルで教えて頂く機会を得て大変良かったです。講義開始直前には講義内容の資料がダウンロード出来る様になれば良いと思います。（80代男性）

★ご意見・ご感想（抜粋）

- ・ありがとうございました。（60代男性）
- ・タイタニックの実践をやってみます。（40代女性）
- ・「有意水準5%」の根拠や、適切なサンプル数の設定の仕方なども知りたかったです。また開催されることを期待しております。（40代女性）
- ・新たに「自分が収集したデータが、またやっても同じようになるのか、それとも偶然だったのか」を検証することが大事なんだなと思って良かったです。（10代女性）

2022 年度 尾道市立大学コンピュータ公開講座

EXCELで効果検証 ～因果推論入門～

2023年
3月4日(土)
13時00分～15時00分
(入室:12時40分)

【会 場】オンライン (Zoom)
【担当者】井本 伸
(尾道市立大学 経済情報学部 教授)

【内 容】

世の中には様々な因果関係、すなわち原因と結果の関係が存在します。因果推論とは、この原因と結果の関係を推し量ることです。ある施策が“効果がある”というためには、データを用いて定量的に検証しなければなりません。その際に用いられるのが統計的因果推論であり、その中で最も基本的な手法が“平均の差の検定”です。この講座では、EXCELを用いて“平均の差の検定”を行う方法を学び、その結果の解釈や具体例・実践方法について講義を行います。

【対 象】どなたでも
(オンライン受講可能な中学生以上)
【必要な機材等】Windows パソコン
(Microsoft Officeが利用可能)、
インターネット環境

【定 員】20 名 (応募者多数の場合は抽選)
【受講料】無料

デザイン 満口有希

お申込み方法

- ・下記 QR コード (又は以下の URL) の申込フォームに必要事項を入力の上、送信してください。
<https://forms.office.com/r/rmG97ak1KP>
- 【申込期限】3月1日(水)
- ・QR コードから『受講の手引き』をご覧ください、「Zoom」がご利用になれるか事前に確認のうえ、お申込みください。
- ・電話・FAX・ハガキ等では申込みできませんのでご注意ください。

【お問い合わせ】

公開講座に関するお問い合わせは、以下のアドレス宛にご連絡ください。
尾道市立大学 情報処理研究センター MAIL: k-kouza@onomichi-u.ac.jp



令和 3（2021）年度 情報科学研究会アンケート集計

尾道市立大学 第 33 回 情報科学研究会（令和 3 年度）	
日 時	令和 4（2022）年 3 月 24 日（木）13：00～15：00
会 場	オンライン（Zoom）

演 題	学習管理システム Moodle の超入門
講 師	松本 慎平（広島工業大学情報学部教授）
対 象	一般・学生・教職員（オンライン受講可能な方）
モデレータ	有吉勇介（尾道市立大学経済情報学科教授）
受講料	無料
講座の概要	Moodle とは学習管理システム（LMS: Learning Management System）の一つです。学習管理システム（LMS）と呼ぶと堅苦しい印象を受けますが、授業で用いる資料の共有・レポートの受け渡し・質疑応答・小テストの実施など、予習や復習も含む学生が学習する上での支援を行う様々な Web サービスを統合したポータルシステムです。もちろん、課題提出やその採点、小テストとその成績の評価、資料の閲覧状況確認といった学習状況と成績を評価することにも使えます。そのような LMS の中でも Moodle は日本の大学でトップシェアで、最近は高等学校でも導入されはじめています。そこで、今回の情報科学研究会では、広島工業大学の松本慎平先生をお招きして、はじめに Moodle について講演をしていただき、その後に Moodle による授業用の Web ページの作り方などの入門をハンズオン（実習）形式で行う予定です。

〈受講者アンケート掲載項目〉

参加者数	7 名
アンケート回答者（回収率）	6 名（86%）

講座について				
とても良かった	良かった	ふつう	あまり面白くなかった	面白くなかった
1	4	1	0	0

☆講座の良かった点、改善すべき点（抜粋）

- ・ Moodle の特性が理解できた。（60 代）
- ・ 使う上で便利な点をポイントに絞って教えていただけた。（60 代）
- ・ moodle の具体的な使い方は分かりましたが、使いながら身に付くことも多いように思いました。どんなことをやりたいかということに対してお答えいただく方法もあったように思います。（50 代）

★ご意見・ご感想（抜粋）

- ・ zip 形式を使った複数ファイルの掲載方法を知ることができてよかったです。今後、活用します。（40 代）
- ・ moodle の応用編（千葉大のマニュアルの 4 章以降）のセミナーも開催していただけると幸いです。（60 代）
- ・ テストサイトを作ってくださっていましたが、職場のパソコンのセキュリティが高くて入れませんでした。申し訳ありません。仕事で Googleclassroom を使用しておりますが、違いがよく分かりました。ありがとうございました。（50 代）

第 33 回

尾道市立大学情報科学研究会



学習管理システム Moodle の超入門

2022 年 3 月 24 日 (木)
13:00~15:00 (入室 12:30~)

場所: オンライン (Zoom)

参加無料

対象: 一般・学生・教職員 (Zoom によりオンライン受講が可能な方)
ご準備いただくもの: インターネット環境、パソコン (Web ブラウザが利用可能)
定員: 20 名 参加費: 無料

お申込み方法:

- ・右記 QR コード (又は以下の URL) の申込フォームに必要事項を入力の上、送信してください。

<https://forms.office.com/r/RcNdVzbnb1>

【申込期限】3 月 21 日 (月)

- ・詳しくは、申込フォームから『受講の手引き』をご覧ください、「Zoom」がご利用になれるか事前に確認のうえ、お申込みください。
- ・電話・FAX・ハガキ等では申込み出来ませんのでご注意下さい。



Moodle とは学習管理システム (LMS: Learning Management System) の一つです。学習管理システム (LMS) と呼ぶと堅苦しい印象を受けますが、授業で用いる資料の共有・レポートの受け渡し・質疑応答・小テストの実施など、予習や復習も含む学生が学習する上での支援を行う様々な Web サービスを統合したポータルシステムです。もちろん、課題提出やその採点、小テストとその成績の評価、資料の閲覧状況確認といった学習状況と成績を評価することにも使えます。そのような LMS の中でも Moodle は日本の大学でトップシェアで、最近は高等学校でも導入されはじめています。そこで、今回の情報科学研究会では、広島工業大学の松本慎平先生をお招きして、はじめに Moodle について講演をしていただき、その後に Moodle による授業用の Web ページの作り方などの入門をハンズオン (実習) 形式で行う予定です。

講師

松本 慎平 氏 (広島工業大学情報学部教授)

2007 年大阪大学大学院博士後期課程修了。大分工業高等専門学校講師などを経て、2010 年広島工業大学情報学部助教、2013 年より同大学准教授、2021 年より同大学教授となり現在に至る。
2015 年より尾道市立大学経済情報学部非常勤講師。教育工学、社会システム工学の研究に従事。博士 (情報科学)。

<モデレータ> **有吉 勇介** (尾道市立大学経済情報学部教授)

主催: 尾道市立大学情報処理研究センター
問合せ先: 尾道市立大学情報処理研究センター
E-mail: k-kouza@onomichi-u.ac.jp

協力: 尾道市立大学地域総合センター
URL: <https://www.onomichi-u.ac.jp>

令和4（2022）年度 情報科学研究会アンケート集計

尾道市立大学 第34回 情報科学研究会（令和4年度）	
日 時	令和4（2022）年12月26日（月）13：10～14：40
会 場	オンライン（Zoom）

演 題	極薄・人工知能入門
講 師	木村 文則（尾道市立大学経済情報学科准教授）
対 象	一般・学生・教職員（オンライン受講可能な方）
受講料	無料
講座の概要	近頃、人工知能が急速に普及し始めており、数年後には社会人として活躍するであろう高校生みなさんも、人工知能について一通り知っておくことが求められます。この講座では、そんな要望にお応えし、人工知能（ニューラルネットワーク）について、基礎知識から初歩のプログラム例まで、あっさりと説明します。人工知能の構造や仕組みについて、数式を使わずに本質をお伝えします。また、簡単な人工知能（手書き数字認識）であれば、そのプログラムは意外と簡単に書けることも紹介します。この講座は薄味ですが、素材のうま味（重要知識）をしっかりと伝えたいと思います。

〈受講者アンケート掲載項目〉

参加者数	20名
アンケート回答者（回収率）	16名（80％）

講座について				
とても良かった	良かった	ふつう	あまり面白くなかった	面白くなかった
7	7	1	1	0

☆講座の良かった点、改善すべき点（抜粋）

- ・自分でもできる気がした点。（60代男性）
- ・資料や説明がわかりやすく理解が深まりました。（40代男性）
- ・基礎的なところからお話ししていただいて導入からすごくわかりやすかったです。（10代男性）
- ・定義に疑問のあった「プログラミング教育」の内容が理解できてよかった。尾道の企業との取り組みについて、もう少し教えていただきたい。（50代男性）
- ・事前資料を読んで質問しようと思っていたことに触れられていたので、分かりやすかったです。（10代女性）
- ・木村先生のお優しい性格がにじみ出ていて、とても良かったです。少しでも寄り添おうという姿勢が強く感じられていて、木村先生が人気がある理由が、よくわかるような気がしました。（50代男性）
- ・今回は、初級編だったので概要のみで、ある程度は理解した。（60代）
- ・人工知能を学ぶにあたってどういう勉強をしたらよいのか（数学等）という点を説明したり、わかりやすく良かったです。（40代女性）
- ・ニュースや記事などでは分かっていることが前提でありあまり解説されることのない、ディープラーニング、ニューラルネットワークなど基本的なところから説明があり、人工知能の基礎について

一度の講座で、ざっくりと理解することができた。(40代男性)

- ・もう少しはっきりと重要な点は重点的に話を置いて話したほうがわかりやすいのではないかと思います。(10代女性)

★ご意見・ご感想（抜粋）

- ・本日はありがとうございました。(40代男性)
- ・プログラミングの基礎知識を少し知れた気がしました。いくつか理解できる場所があったのですごく面白かったです。(10代男性)
- ・大変面白かったです。楽しい講演をありがとうございました。(10代女性)
- ・自宅のパソコン（ノートパソコン）でも、プログラミングをしたり、人工知能のプログラミングを試してみることができるのでしょうか？(70代男性)
- ・おつかれさまでした。聴衆の反応・理解度がわからないのは話しにくいですが、冒頭の「ほうれん草のお浸しの話」を含めて、とても良かったです。ありがとうございました。(50代男性)
- ・長いこと仕事の為にその場限りのスクリプトを書く程度しかしていませんでしたが、久しぶりにプログラムを書いてみようかと思えました。モジュール化された学習システムについても学んでみようと思います。ありがとうございました。(50代男性)
- ・予想していたものでした。プログラミング言語の種類について、もう少し知りたかったです。地方の人材の育成は、年齢を問わず、老若男女がいつでもどこでも多様な教育が必要だと思います。オンラインだけでなく、対面の講座も混ぜて行くと人との相乗効果もでて面白いと思います。これからの講座の発展を願っています。(60代)
- ・人工知能について興味があり、講座を受講しました。オンラインであれば一般からも手軽に聴講できるので、今後もこういった概論的な講座を増やして欲しい。(40代男性)
- ・instagramで開催をたまたま知れたので良かったが、他の手段でも広報していただきたい。(30代男性)

第34回情報科学研究会

講演テーマ

「極薄・人工知能入門」

日時：12月26日(月)

13:10~14:40 (入室 12:50~) オンライン(Zoom)

講演概要：近頃、人工知能が急速に普及し始めており、数年後には社会人として活躍するであろう高校生みなさんも、人工知能について一通り知っておくことが求められます。この講座では、そんな要望にお応えし、人工知能(ニューラルネットワーク)について、基礎知識から初歩のプログラム例まで、あっさりとして説明します。人工知能の構造や仕組みについて、数式を使わずに本質をお伝えします。また、簡単な人工知能(手書き数字認識)であれば、そのプログラムは意外と簡単に書けることも紹介します。この講座は薄味ですが、素材のうま味(重要知識)をしっかりとお伝えいたします。

対象者：高校生・一般市民・教職員・学生
(Zoomによりオンライン受講が可能な方)

※ おもに高校生対及び、一般市民の方々にを対象に、学内外どなたでも御参加いただける形で実施します。

※ 参加費無料

必要な機材等：デバイス(パソコン・スマートフォン等)、インターネット環境

定員：100名

講師略歴：木村 文則(きむら ふみのり)

尾道市立大学経済情報学部准教授

2005年奈良先端科学技術大学院大学博士後期課程を研究指導認定退学。2007年に同学にて博士(工学)の学位を取得。同志社大学実習助手や立命館大学助手などを経て、2015年尾道市立大学経済情報学部講師、2018年より同大学准教授となり、現在に至る。

テキストマイニング、ビッグデータ分析、人工知能の研究に従事。情報処理学会、IEEE等の各会員。

お申込み方法：

・右記QRコード(又は以下のURL)の申込フォームに必要事項を入力の上、送信してください。
<https://forms.office.com/r/m8TRwR9nWt>

【申込期限】12月22日(木)



QRコードから『受講の手引き』を確認のうえ、お申し込みください。
・電話・FAX・ハガキ等では申込みできませんのでご注意ください。

主催：尾道市立大学情報科学研究会 協力：尾道市立大学地域総合センター

お問い合わせ：尾道市立大学情報処理研究センター
E-mail: k-kouza@onomichi-u.ac.jp
URL: <https://www.onomichi-u.ac.jp>

Design by Komi Murakami

令和3, 4年度 尾道文学談話会 テーマ一覧

尾道文学談話会は、日本文学科を中心とした本学の教員が、文学や言葉にかかわる様々な話題を提供し、市民の皆様と語り合う談話形式の公開講座です。

【日時】 毎月第1月曜日（変更の場合あり）

【場所】 しまなみ交流館 大会議室（令和3年度）

尾道市役所 多目的スペース1（令和4年度）

令和3（2021）年度

回	開催日	談話テーマ	講師
第1回	2021/4/5	昔話「犬の足」の伝承世界	藤井 佐美 （日本文学科教授）

※第2回～第6回は、新型コロナウイルス感染予防対策のため全て休会

令和4（2022）年度

回	開催日	談話テーマ	講師
第1回	2022/4/11	昔話「猿の生き肝」を仏教典籍で読む	藤井 佐美 （日本文学科教授）
第2回	2022/5/9	『伊勢物語』の世界	宮谷 聡美 （日本文学科教授）
第3回	2022/6/6	小津安二郎『東京物語』を見る＝読む	柴 市郎 （日本文学科教授）
第4回	2022/7/4	SF アニメとジェンダー	小畑 拓也 （日本文学科准教授）
第5回	2022/8/1	文体まぜこぜの効果を探る	塚本 真紀 （日本文学科教授）
第6回	2022/9/5	青木茂文庫と尾道文芸誌	林 良司 肥田 伊織 （尾道市市史編さん 委員会事務局）

※第3回は、講師都合のため休会

第1回

4月5日(月)

藤井佐美(日本文学科教授)
昔話「犬の足」の伝承世界

第2回

5月10日(第2月曜)

藤井佐美(日本文学科教授)
昔話「猿の生き肝」を
仏教典籍で読む

第3回

6月7日(月)

柴市郎(日本文学科教授)
小津安二郎『東京物語』を見る=読む

第4回

7月5日(月)

小畑拓也(日本文学科准教授)
SFアニメとジェンダー

第5回

8月2日(月)

塚本真紀(日本文学科教授)
心配の適応的意味
一岩倉政治「空気がなくなる日」を読むー

第6回

9月6日(月)

林良司(尾道市史編さん事務局)
肥田伊織(尾道市史編さん事務局)
青木茂文庫と尾道文芸誌

尾道文学談話会

ブ
ン
ガ
ク
ダ
ン
ワ
カ
イ

2021年4月-9月 全6回

毎月第1月曜日 ※5月のみ第2月曜日

18:30-20:00 (18:00 開場)

しまなみ交流館

2F 大会議室にて **参加無料・要予約** (裏面参照)

広島県尾道市東御所町 10-1 尾道駅より徒歩1分

各日先着20名

日本文学科を中心とした尾道市立大学の教員が、
文学や言葉にかかわる様々な話題を提供し、
市民の皆様と語り合う談話形式の公開講座

「2021年度尾道文学談話会」を
上記の日程及びテーマで開催します。

都合により中止になる場合は、尾道市立大学サイトにしてお知らせいたします。
(ご予約の方へは、地域総合センターより個別にご連絡いたします)

【主催】尾道市立大学地域総合センター 【問い合わせ先】〒722-8506 尾道市久山田町 1600 番地 2 尾道市立大学 地域総合センター TEL:0848-22-8312(内線 260)

尾道文学談話会

日本文学科を中心とした尾道市立大学の教員が、文学や言葉にかかわる様々な話題を提供し、市民の皆様と語り合う談話形式の公開講座「二〇二二年度尾道文学談話会」を左記の日程及びテーマで開催します。

4 / 11 (第2月曜日)

第1回 昔話「猿の生き肝」を仏教典籍で読む
藤井 佐美 (日本文学科教授)

5 / 9 (第2月曜日)

第2回 『伊勢物語』の世界
宮谷 聡美 (日本文学科教授)

6 / 6

第3回 小津安二郎『東京物語』を見る = 読む
柴 市郎 (日本文学科教授)

7 / 4

第4回 SF アニメとジェンダー
小畑 拓也 (日本文学科准教授)

8 / 1

第5回 文体まぜこぜの効果を探る
塚本 真紀 (日本文学科教授)

9 / 5

第6回 青木茂文庫と尾道文芸誌
林 良司 肥田 伊織 (尾道市市史編さん委員会事務局)

2022年 4月-9月 全6回

毎月第1月曜日 4月と5月のみ第2月曜日

18:30-20:00 (18:00 開場)

しまなみ交流館 2F 大会議室にて
広島県尾道市東御所町 10-1 尾道駅より徒歩1分

参加無料・要予約 (裏面参照)

各日先着 20名

都合により中止になる場合は、尾道市立大学サイトにてお知らせいたします。
(ご予約の方へは、地域総合センターより個別にご連絡いたします。)

【主催】尾道市立大学地域総合センター 【問い合わせ先】〒722-8506 尾道市久山田町1600番地2 尾道市立大学 地域総合センター TEL:0848-22-8312 (内線260)

尾道市立大学教員 FM おのみち出演 トークテーマ一覧

FM おのみちの番組『You Gotta Radio』内にて、尾道市立大学教員が研究内容の紹介や大学主催共催の講座・イベント・展示の告知を行うコーナーで行われたトークテーマです。

【日時】 毎月第1水曜日 18時16分頃から

【放送局】 FM おのみち（周波数79.4）

年度	開催年月	出演者	学科	トークテーマ
令和3年度	2021年4月	藤岩秀樹	経済情報学科	春です！ からだを動かしてみませんか？
	2021年5月	光原百合	日本文学科	「尾道草紙」について
	2021年6月	橋野仁史	美術学科(油画)	展覧会のススメ！
	2021年7月	桜田知文	美術学科(デザイン)	尾道市の美術館とその周辺の楽しみ方
	2021年8月	有吉勇介	経済情報学科	プログラミング教育って？ 必要??
	2021年9月	木村文則	経済情報学科	人工知能(AI)への疑問にお答えします
	2021年10月	荒井貴史	経済情報学科	情報のソース、1次データ・資料にあたれ！
	2021年11月	宮谷聡美	日本文学科	歌物語って何？
	2021年12月	吉田宰	日本文学科	12/11(土)「第13回おのみち文学三昧」をWeb開催します！
	2022年1月	吉原慎介	美術学科(日本画)	日本画の色の話
	2022年2月	趙 怡純	経済情報学科	『日常の生活品に見るグローバルなつながり』
	2022年3月	藤井佐美	日本文学科	幸せな姥捨山伝承
令和4年度	2022年4月	神崎稔章	経済情報学科	暗号資産とその将来～私達を取り巻くデジタル社会～
	2022年5月	ご出演無し		
	2022年6月	宮川貴史	経済情報学科	日常に現れる数学
	2022年7月	鈴木恵麻	美術学科(日本画)	コロナ直後と現在の美術学科での学びと、尾道市立大学美術館での展示「Curriculum—授業作品展—」の告知
	2022年8月	佐藤沙織	経済情報学科	Covid-19 禍の「尾道方式」
	2022年9月	岡本隼輔	経済情報学科	「みんなと同じ」の「みんな」って誰だろう？
	2022年10月	小野環	美術学科(油画)	地域の記憶の残し方
	2022年11月	吉田宰	日本文学科	江戸時代のカップ&「第14回おのみち文学三昧」告知
	2022年12月	平山直樹	日本文学科	第14回 おのみち文学三昧について
	2023年1月	世永逸彦	美術学科(デザイン)	美術学科卒展・地域プレゼンテーション紹介
	2023年2月	小川長	経済情報学科	ありがとう小川ゼミ— 小川ゼミナール地域活動回顧展について
	2023年3月	藤井佐美	日本文学科	昔話と夢の関係

受託研究等一覧表（令和３年度～令和４年度）

尾道市立大学で行われた産学連携・産官学連携の受託研究等一覧です。

No.	年度	研究題目	対応者		相手先
			教職員	学生	
1	令和３年度	「しおまち商店街」マンホールデザイン制作	世永 逸彦	美術学科３名	尾道市 土木課
2	令和３年度	「しおまち商店街」雨水マンホールデザイン制作	世永 逸彦	美術学科３名	尾道市 土木課
3	令和３年度	アート偏光板を活用した地域活性化企画	桜田 知文	美術学科４名	日東電工株式会社 尾道事業所
4	令和３年度	おのみちしぐさ ～COOL CHOICE 編～ 紙芝居デザイン作成	光原 百合 青井 典子	－	尾道市 環境政策課
5	令和３年度	「しまなみウォーター」パッケージデザインリニューアル	伊藤 麻子	美術学科１名	丸善製薬株式会社
6	令和３年度	AI 画像認識技術により水産塩干物製造における異物を特定するソフトウェアを制作する	木村 文則 本田 治	経済情報学科７名	株式会社カタオカ
7	令和３年度	尾道市シビックプライドデザイン制作	野崎 眞澄 伊藤 麻子	美術学科４名	尾道市 総務課
8	令和３年度	「2022 年版どんぐり工房カレンダー」等のデザイン案の制作等	世永 逸彦	美術学科２名	社会福祉法人 尾道さつき会
9	令和４年度	アート偏光板を活用した地域活性化企画 第１フェーズ（企画提案）	桜田 知文 林 宏	美術学科２名	日東電工株式会社 尾道事業所
10	令和４年度	AI 画像認識技術により水産塩干物製造における異物を特定するソフトウェアを制作する	木村 文則 本田 治	－	株式会社カタオカ
11	令和４年度	アート偏光板を活用した地域活性化企画 第２フェーズ（モックアップ制作）	桜田 知文 林 宏	美術学科２名	日東電工株式会社 尾道事業所
12	令和４年度	しまなみウォーター特別ラベル制作	美術学科教員	－	丸善製薬株式会社
13	令和４年度	おのみち帆布新商品開発業務	世永 逸彦	美術学科１名	NPO 法人 工房おのみち帆布
14	令和４年度	まちなか文化施設ロゴ制作	世永 逸彦	－	尾道市 文化振興課
15	令和４年度	インテリアポスター制作	世永 逸彦	美術学科１名	有限会社アスローズ
16	令和４年度	インテリアポスター制作	世永 逸彦	美術学科１名	有限会社山口運送
17	令和４年度	防犯ポスターデザイン制作	世永 逸彦	美術学科３名	尾道警察署
18	令和４年度	令和４年度尾道市人流分析業務	小川 長 木村 文則	経済情報学科８名	尾道市 商工課

地域学習報告 一覧 (2021 年度～ 2022 年度)

本学教員が取り組んでいる学生向け、市民向け公開講座・イベント等、地域学習の情報を集約しています。

(1) 一般向け公開講座など

NO	担当教員	活動名	開催形式	実施日	参加費
1	経済情報学科	経済情報学科公開講演会	公開講座	2022 年度	不要
経済情報学科主催の公開講演会。田中有史氏（クリエイティブディレクター・コピーライター）による講演。					
2	日本文学科	尾道文学談話会	公開講座	4 月～9 月の期間で 毎月 1 回開催	不要
日本文学科教員を中心とする一般向け公開講座。					
3	日本文学科	おのみち文学三昧	その他	毎年 12 月初旬～中旬 の期間の 1 日	不要
日本文学科 3 年生研究発表会に基づく研究成果の公開と、講演会の一般公開。					
4	地域総合センター	尾道学入門公開授業	授業	2022 年度前期	不要
地域に開かれた大学づくりの一環として、教養教育科目の講義「尾道学入門」を一般公開。					
5	地域総合センター	教養講座	公開講座	2021 年度, 2022 年度	不要
地域に開かれた大学をめざし、教育研究活動の一端を地域に還元することを目的として開講。毎回担当講師が変わるオムニバス形式の講座。					
6	情報処理研究センター	コンピュータ講座	公開講座	2021 年度, 2022 年度	不要
2021 年度:『EXCEL を用いたデータ分析実践』金田 陸幸(尾道市立大学 経済情報学部 准教授) 2022 年度:『EXCEL で効果検証～因果推論入門～』井本 伸(尾道市立大学 経済情報学部 教授)					
7	情報処理研究センター	情報科学研究会	公開講座(オンライン)	2021 年度, 2022 年度	不要
第 33 回:『学習管理システム Moodle の超入門』松本 慎平(広島工業大学 情報学部 教授) 第 34 回:『極薄・人工知能入門』木村 文則(尾道市立大学 経済情報学部 准教授)					
8	小川長	街中ゼミ	公開ゼミ	2022 年度(後期毎月 1 回開催)	不要
経済情報学科 小川ゼミによる尾道を中心としたゼミ活動。					
9	小野環	座談会「新しい日常と表現」	イベント	2021 年 4 月	不要
10	小野環	ギャラリートーク「re-edit 再編」	イベント	2021 年 7 月 3 日	不要
11	小野環	対談企画「場をどう捉えるか」	イベント	2021 年 7 月 24 日	不要
12	小野環	「身近な材料で表す図画工作科、美術科、芸術家(美術)の授業づくり」講座	公開講座	2021 年 12 月 20 日	不要
13	小野環	トークイベント「小林和作について旧居を語る。旧居で語る。」	イベント	2021 年 5 月	不要
14	小野環	「塩江の歴史を体験するゲストハウス中間報告会」	イベント	2022 年 2 月 19 日	不要
15	小野環	第 3 回「ローカルの語り研究会～地域を語り拓くメディアコミュニケーションを考える～」	オンライン	2022 年 3 月 1 日	不要
美術学科教授 小野環による主な学外活動。					
16	木村文則	尾道市主催 プログラミング体験教室		2022 年 9 月 3 日 2022 年 9 月 4 日	不要
ゼミの 3 回生 5 名をサポート役に派遣 尾道市主催 プログラミング体験教室 第 70 回尾道市子ども科学展と同時開催(イベントの一つとしてプログラミング体験教室)					
17	佐藤沙織	「尾道しまなみ新聞」への寄稿	公開	毎年 2 回	不要
尾道市吉和地区の住民の皆さんの発行する「尾道しまなみ新聞」にゼミナール生が寄稿しています。					
18	藤本真理子	ことばの不思議「地域のことばはどのようにして残るかー『三訪会会報』を資料のひとつにー」		2022 年 6 月 19 日 日曜日	不要
三成地区の歴史と備後地方の自然探訪教室の講演です。三成学区の歴史と自然を訪ねる会の会報誌『三訪会会報』に掲載の「〈方言シリーズ〉みなり弁ばあ」をとりあげ、尾道市美ノ郷町三成の方言や言葉の変化について学びます。					
19	森本幾子	古文書講座ー「女大学絵抄」を読むー	公開ゼミ	2021 年 12 月	不要
江戸時代の古文書読解のための初心者向け講座です。江戸時代のくずし字解読の基礎的事項や解読ポイントについて学びます。					
20	森本幾子	尾道の歴史的遺産と集客方法について考える	本学 HP		不要
ゼミ学生が尾道の歴史的遺産をどのように集客に結び付けるかを考察する取り組み					

(2) 学生向け授業など

NO	担当教員	活動名	開催形式	実施日
1	日本文学科	おのみち文化スタディ	その他	毎年5月中の一日で開催
日本文学科の新入生歓迎行事の一つ。上級学生スタッフと教員が新入生と一緒に尾道を散策する。				
2	日本文学科	科目「フィールドワーク」	授業	通年（前期～後期授業期間）
日本文学科3年生以上を対象とする授業。フィールドワークの基礎知識を実習とともに学ぶ。				
3	美術学科	地域プレゼンテーション課題	授業課題	展示： 2023年2月18日～22日 発表会：2月20日
美術学科デザインコース3年生の課題。尾道や出身地をテーマに企画・制作を行う。				
4	地域総合センター	尾道学入門	授業	2022年度前期
教養教育科目の講義。尾道の歴史・文化・経済等に関する知識を修得する。				
5	岡本隼輔	フィールドワーク：広島県尾道市（向島、因島、生口島）における地域振興、商店街等の視察	ゼミ	2021年度、2022年度
学生とともに地域振興策について考察するためのフィールドワーク実施。				
6	岡本隼輔	フィールドワーク：高知県室戸市および馬路村における地域振興、ダム施設の視察	ゼミ	2022年度
学生とともに地域経済、環境経済学について考察するためのフィールドワーク実施。				
7	小野環	出前授業「尾道空き家再生」	授業	2021年
8	小野環	出前授業「尾道空き家再生」フィールドワーク編	授業	2021年
9	小野環	出前授業「吉和の歴史と現在」フィールドワーク編	授業	2022年3月3日
尾道商業高校での出前授業				
10	木村文則	愛媛県立弓削高校での学生向け講演	その他	その他
ゼミの3回生1名を講師として派遣「大学で情報学をなぜ学ぶことにしたのか」について講演（後半は、プログラミングの体験会：これも学生が全て学生が企画・実施）				
11	木村文則	尾道商業高校の「探求的学習」授業の計画の助言および発表会の参加	その他	2023年2月7日
今年度から開始された「探求的学習」授業の案の提示（そのうち、「尾道の魅力的な写真を撮影し、それを活用した観光プランの提示」が今年度は実施されている）。				
12	佐藤沙織	コロナ禍の「尾道方式」	ゼミ	2022年7月27日
13	佐藤沙織	コロナ禍の「尾道方式」	ゼミ	2022年10月19日
14	佐藤沙織	コロナ禍の「尾道方式」	ゼミ	2022年11月16日
15	佐藤沙織	コロナ禍の「尾道方式」	ゼミ	2022年12月14日
16	佐藤沙織	コロナ禍の「尾道方式」	ゼミ	2023年1月13日
尾道市には「尾道方式」と呼ばれる独自の地域包括ケアシステムが構築されています。コロナウイルス感染症によって既存のシステムがどのような影響を受けたのか、ゼミナール生が調査しました。				
17	佐藤沙織	尾道市「第三の居場所」事業の意義と課題	2022年度卒業論文	2022年度（卒業研究）
子どもの貧困問題に対峙するために尾道市が設置する「第三の居場所」を対象に、実施状況と課題を調査しました。				
18	塚本真紀	教職課程で学ぶ学生の教育実践活動	その他	2022年7月7日
『教職実践演習』（4年後期・教職）の授業内で尾道市社会福祉協議会の社会福祉士の方を招いて、尾道の地域福祉について学ぶ機会を設けました。				
19	塚本真紀	『地域における子どもの教育～社会問題解決の一事例を通じて～』		
中学校や福祉施設での教育実践活動について場や時間の調整・参加学生への事前指導を行っています。				
20	中村譲	芸術的視点を取り入れた幼児教育事業	木ノ庄東幼稚園	2022年5月30日 2022年10月25日
幼稚園児に、日本画の技法（砂子）や絵画における様々な技法を体験してもらう。				
21	原卓史	赤神諒『空貝 村上水軍の神姫』を読む	授業	2022年9月～2023年1月
日本文学講読5の授業で、当該作品を取り上げました。主だった舞台は大三島になりますが、因島村上のことに触れる機会がありました。				
22	灰谷謙二	創作コンテンツのなかの広島弁	その他	2019年9月 宮原高校模擬授業

小説やドラマ・アニメ・マンガのなかで使われる広島方言について、どのようなものが典型的な広島弁と理解されどのように用いられているかを考えます。

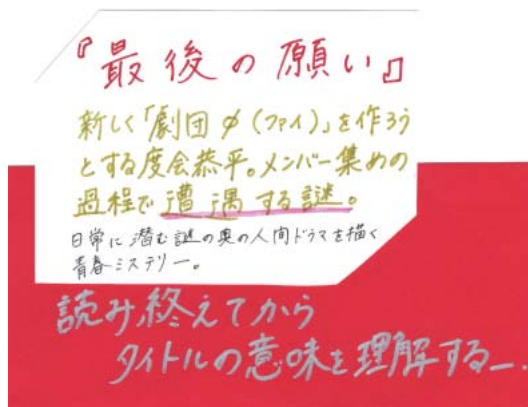
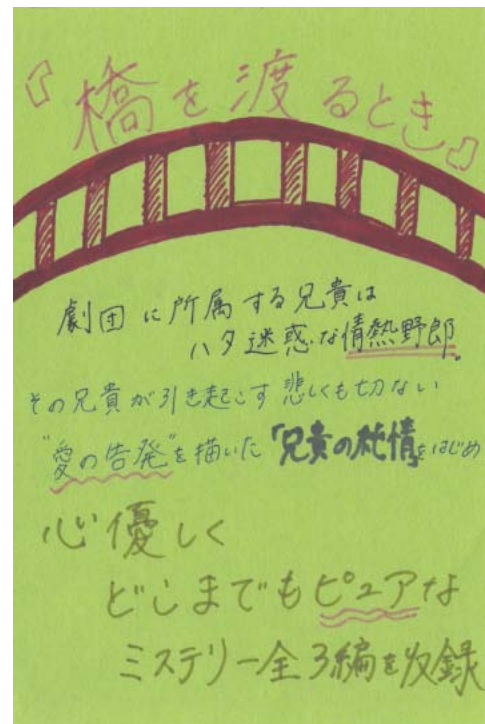
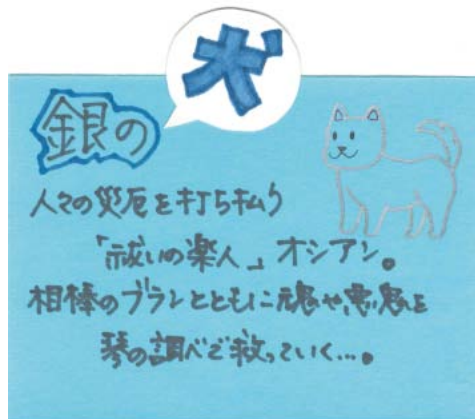
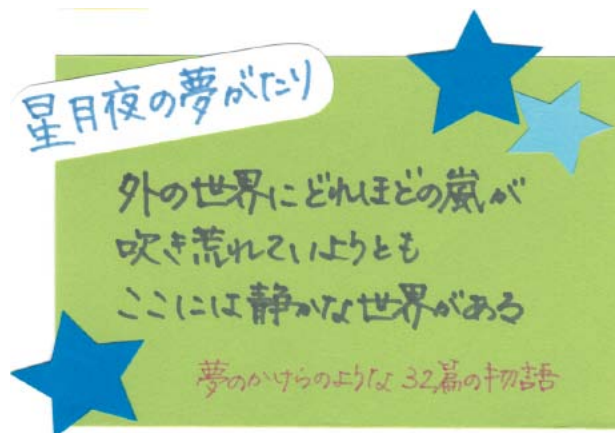
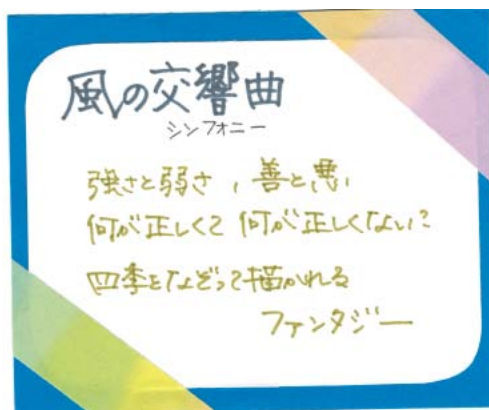
NO	担当教員	活動名	開催形式	実施日
23	灰谷謙二	東京物語のなかの尾道方言	授業	日本語学講義 4 8 回目授業内
小津安二郎の東京物語のなかにあらわれる尾道方言がどのように準備され、どんなかたちで実現しているかを紹介します。				
24	灰谷謙二	科目「日本語学講義 4」のうち「瀬戸内の環境とことば (第 6 回)」	授業	日本語学講義 4 6 回目
漁業語彙、瀬戸内の潮の干満とことば、漁場確定のための「やまあて」の知識と方法を通して、語彙と生活の関係を理解します。				
25	藤井佐美	科目「民話研究」(日本文学科 2 年生以上) 尾道民話の解説	授業	後期授業期間
毎回の授業で、尾道に伝承されてきた民間説話 2 話ずつを解説する。				
26	藤井佐美	科目「瀬戸内文化論」	授業	前期授業期間
毎回の授業で、しまなみ海道をめぐる伝承文化の事例紹介と解説をおこなう。				
27	藤井佐美	科目「民俗学Ⅱ」	授業	後期授業期間
身近な地域をめぐるフィールドワーク企画書提出を課題とし、フィードバックを通して地域学習の意義と可能性について解説する。				
28	藤井佐美	科目「伝承文学専門演習 b」 昔話資料の研究	授業	後期授業期間
広島県の民話資料を輪読し、履修者自身の研究成果を授業で共有し討議をおこなう。				
29	森本幾子	尾道の寺院と集客に関するフィールドワーク実施	ゼミ	2021 年度、2022 年度
尾道の寺院の歴史と、新たな取り組みによる集客方法を体験しました。時光寺ご住職から尾道と寺の歴史の関係についてのレクチャーをしていただきました。				
30	森本幾子	科目「地域経済史」	授業	2021 年度前期 2022 年度前期
仕切状を読む(尾道と北前船商人の商取引)、尾道来訪者の歴史、尾道の造船業の歴史				
31	森本幾子	小倉幹正「ローカル線の廃止問題と今後の向き合い方ー尾道鉄道の事例とフィールドワークを踏まえてー」	2022 年度卒業論文	2022 年度
32	森本幾子	越智亜未「村上海賊の活躍について」	2022 年度卒業論文	2021 年度
33	森本幾子	園山朱理「尾道の造船業における課題と今後の展望」	2021 年度卒業論文	2021 年度
34	森本幾子	村上歩美「カフェの歴史と地域との繋がり」	2021 年度卒業論文	2021 年度
35	森本幾子	村田拓郎「名誉市民から見る尾道市の発展と今後の課題」	2021 年度卒業論文	2021 年度
36	山本 賢太郎	科目「地域の伝統文化(囲碁)」	授業	後期授業期間
尾道市の市技である囲碁を身につけ、尾道のより一層の理解に役立てる。				
37	世永逸彦・林宏	地域ポスター展「ライフ」 木工デザイン展	制作発表 (U2)	2022 年 11 月 11 日～17 日
尾道や自分の出身地をテーマに制作。アルファベット 26 文字を独自にデザイン。				

光原百合先生 追悼展示について

長年、本学の地域活動に貢献し、尾道市立大学地域総合センター員を務められた日本文学科教授
光原百合先生が、令和4年8月24日にご逝去されました。

光原先生への追悼と感謝を込めて、日本文学科の学生有志が主体となり、附属図書館一階雑誌閲覧室・C棟一階ロビーにおいて、追悼展示「～追悼の意を込めて～光原百合先生作品展示」を開催しました（令和4年10月18日～29日）。

図書館雑誌閲覧室では、光原先生の著作のうち、本学図書館所蔵作品および個人所有の作品を収集し、展示を行いました。展示では、学生によるポップが、光原先生のこれまでの著作を彩りました。



ポップ提供：日高わかな、原田琴未（日本文学科学生）

C棟1Fロビーの展示では、「光原先生と地域との関わり」、「光原先生の怪談への関心」、「光原先生の文芸創作の考え方」、「『翠幻地』からみえる光原先生」、「光原先生の英語教育の考え方」の五つのテーマで資料が展示されました。日本文学科教員や地域総合センターも協力し、光原先生が担当された公開講座やイベント、怪談や文芸創作への思いなどを集めた資料を作成、展示しました。



尾道市立大学附属図書館展示



尾道市立大学C棟展示

●●●●●●●●●●
光原先生
講座一覧
●●●●●●●●●●

担当：

原 優花
藤井 佐美
藤本真理子
協力：

地域総合センター

講座シリーズ回数	講座	年度	講座タイトル
第21回	尾道短期大学公開講座	平成 9	シャロック・ホームズとその末裔たち
第 1回	尾道大学公開講座	平成 13	「指輪物語」の世界
第 1回	尾道学講座	平成 18	尾道創作民話の取り組みについて
第 2回	尾道文学談話会	平成 22	尾道の風土と『尾道草紙』
第 4回	尾道文学談話会	平成 23	光原百合『星月夜の夢がたり』を読む
第 5回	尾道文学談話会	平成 24	小説のさまざまな結末について
第 6回	尾道文学談話会	平成 25	リドルストーリーについて
第 7回	尾道文学談話会	平成 26	尾道で怪談を書く
—	公開講座	平成 27	哲学/文学セッション
—	公開講座	平成 27	哲学/文学セッション「桜絵師」
—	公開講座	平成 27	哲学/文学セッション「旅の編み人」
—	公開講座	平成 27	哲学/文学セッション「写想家」
第 8回	尾道文学談話会	平成 27	ラフカディオ・ハーンから小泉八雲へ
—	公開講座	平成 27	哲学/文学セッション「ピアニッシモより小さな祈り」
第 4回	尾道市立大学公開講座	平成 28	尾道でのひら怪談について
第 10回	尾道文学談話会	平成 29	尾道でのひら怪談の魅力
第 5回	尾道市立大学公開講座	平成 29	尾道の土地柄と怪談
第 11回	尾道文学談話会	平成 30	『おのみち怪談』を読む
第 6回	尾道市立大学公開講座	平成 30	尾道本でビブリアオバトル！
第 12回	尾道文学談話会	平成 31	ミステリーの魅力とは or 怪談の魅力とは
第 8回	尾道市立大学公開講座	令和 3	小泉八雲「飴を買う女」と、尾道の「丹花の飴買い幽霊」

光原先生の 考える「怪談の アイデンティ ティ」とは？

「怪談の魅力について」、『尾道文学談話会会報』5、2014、尾道市立大学芸術文化学部日本文学科、pp. 37-43

〈怖いだけでは怪談とは呼べない〉、それでは怖いだけではない、怪談を怪談たらしめる要素、怪談のアイデンティティとは何なのでしょう？

筆者自身は怪談を、怖いと同時に一種の「哀惜の念」を覚えさせる物語と考えています。怪談の多くに、亡き人の霊やもう失われたもの、失われつつあるものが登場するからでしょうか。

『指輪物語』『すみっこぐらし』『相棒』etc.
←好んで紹介された作品やキャラクターたち。
過去の設定がある？？

「怪談」から 地域へという 意識

「怪談の魅力について」、『尾道文学談話会会報』5、2014、尾道市立大学芸術文化学部日本文学科、pp. 37-43

もともと怪談は、地域に根差して長く語り伝えられたものも多く、その点「民話」と共通して、地域文化と深く関わると考えていいでしょう。

小泉凡氏による「怪談＝地域文化」の考え方等にもとづく。小泉八雲（ラフカディオ・ハーン）とかかわりの深い島根県や怪談への関心ともつながる。

「ふるさと怪談トークライブ」や「てのひら怪談作品募集」、地域の講演にそれぞれつながっていく。

てのひら怪談の いきさつ

—尾道に怪談を—



「尾道てのひら怪談について」、
『尾道市立大学地域総合センター
叢書』9、2017、尾道市立大学
地域総合センター、pp.61-63

それら（他地域での企画）の流れを受け、尾道という土地にも怪談が似合うと筆者は考えた。尾道は風光明媚で歴史も古く、人々の町への愛着も強い。また旧市街には寺社が多く、この世とあの世が仲良く隣接しているような雰囲気を残している。尾道を舞台とした魅力的な怪談が新たに生まれれば、尾道の新たな魅力にもつながることだろう。

すべては今回の結果次第であるが、可能であれば「尾道てのひら怪談」も大阪のように、今後とも継続させていきたい。

文芸創作の 視点



「文芸創作 この十年」、『尾道市立大学日本文学論叢』9、2013、
尾道市立大学日本文学会、pp. 3-6

文芸創作で培った文章力は、社会人になってからも必ず役立つし、それ以上に、自分の中にある世界を表現する方法を知っておくことは、人生のいずれかの局面で自分を救ってくれることがある。

- 若者たちが描きたい世界は、（この）十年くらいではまだ大きく変わらないのかもしれない。
- （しかし、）作品の登場人物に地味なリアリティよりも鮮烈な存在感を求める傾向はあると思う。

背景に〈エンターテインメント性の豊かさ〉を見る。

展示によせて……センター職員より

光原先生と初めて出会ったのは、私が学生の頃でした。光原先生の著作を読んで、当時書いていた読書ノートに「同郷だ！いつか尾道で光原百合に会えたりしないかなあ」（原文ママ）などと、のんきにしていたためていました。

そんなこともすっかり忘れていた20年後、私は尾道市立大学で働くこととなり、そして光原先生とお会いすることが叶い、夢はまさに現実のものとなりました。ずっと昔から先生の本を読んでいたり好きな推理小説・怪談の話をしたこと、公開講座のあと家までお送りしたこと、私の名前を呼んでくれて、いつもありがとうと言ってもらえたこと……私はいつも信じられない現実が緩んでいました。「夢は必ず叶う」などと、大きなことは言えませんが、光原先生にお会いすることで、本当に叶うこともあるんだと身に染みて感じさせてもらえました。

今でもふと、地域総合センターのドアをノックして、いつものように顔を見せてくれるのではないかと……と思っています。

光原先生、どうもありがとうございました。出会うことができ、本当に嬉しかったです。

地域総合センター職員 高垣美晴

地域総合センター員一同、心よりご冥福をお祈りいたします。

※追悼展示の展示資料を掲載しています。

尾道市立大学 日本文学科発行の「尾道文学談話会会報第13号」に同様の内容のものが収められています。

目次

授業紹介

昔話資料集『採訪記録 ひろしまの民話』の輪読記録

— 二〇二二年度伝承文学専門演習Ⅱの報告より —

尾道市立大学芸術文化学部日本文学科教授 藤井 佐美 ————— [2]



藤井 佐美 (ふじい さみ)

日本文学科教授

伝承文学・民俗学を担当しています。地域に語り継がれてきた昔話や伝説の世界をたどると、文学作品や寺社の縁起話に結びつくことがあります。多様な日本文化のありかたを学生と一緒に学び、楽しみ、伝えていくことができればと思います。毎年、日本文学科教員による公開講座「尾道文学談話会」も開催しておりますので、会報もあわせてお楽しみください。

【授業紹介】

昔話資料集『採訪記録 ひろしまの民話』の輪読記録 — 二〇二二年度伝承文学専門演習bの報告より —

尾道市立大学芸術文化学部日本文学科教授

藤井 佐美

昔話の語り手との出会いが難しくなったといわれ、ずいぶん経過しています。対話形式で盛んに進められていたフィールドワークの成果は、活字化されて研究機関や行政機関に所蔵されたものもありますが、それらの資料集についての分析や利用方法が話題となることは少ないようです。

本稿は、二〇二二年度伝承文学専門演習bの授業記録です。近年、この演習bでは民話にかかわる資料集をとりあげており、二〇二二年度は『採訪記録 ひろしまの民話(昔話編)』(中国放送編集 野村純一・村岡浅夫監修 第一法規出版一九八一年)を分担して読み進めました。

この資料集は、中国放送のラジオ番組「ひろしまの民話」(一九七八年四月八日～翌年七月二日まで、土曜日・午前11時35～50分)の放送内容に基づきます。そこには、九六話におよぶ方言語りが活字化されており、放送の年月日(和暦)、語り手の情報、参考とされた昔話のタイプインデックス番号、野村純一氏の昔話解説、あとがきに元中国放送ラジオ制作部・栗原秀雄氏の思い出話が紹介されています。演習に際し音源の利用は叶いませんでしたが、注釈作業・あらすじの整理・構成要素の分析により、昔話が語られた当時の様子についても理解が深まっていきました。そして、それは口承文芸と呼ばれていたころの語りの世界に思いを馳せることでもありました。

昔話を学問の対象としたことのなかった九名の学生にとって、演習での学びは広島県だけでなく各出身地の伝承話を考える機会ともなり、分担発表をもとに積極的な意見交換がおこなわれました。

ささやかではありますが、学生の輪読した昔話を一覧化し、このような資料集が地域の文化遺産であることも併せてご紹介しておきます。

昔話一覧

- ・最上段の話番号は掲載順に付し、次段に掲載開始頁を記すことで語りの分量を示した。
- ・話名、伝承地は掲載内容による。
- ・「語り始め」と「結末句」は該当する語りがある場合は示し、ない場合は空欄とした。
- ・話型をめぐる以下三種類の分類番号は担当学生の報告内容による。本稿はあくまでも授業記録のため、未報告の場合は×とした。
- 大 No. 『日本昔話大成』（関敬吾、角川書店、資料集巻末の表記番号とともに確認）
- AT No. 『昔話の型』アールネ・トンプソン（右記『日本昔話大成』参照）
- IT No. 『日本昔話通観』（同朋社出版）
- ・関連話・テーマ・特徴等は担当学生の気づきによる。
- ・掲載された語り手の情報（氏名、生年月日）を本稿で表記することは控えたが、語り手の生年は明治23年から昭和2年までであった。
- ・放送日は掲載内容によるが、該当する内容が掲載されていない場合は未詳とした。
- ・写真と挿絵がある場合は※として解説文から示した。

話	話名	伝承地	語り始め	結末句	話型分類番号	関連話・テーマ・特徴等	放送日 ※写真・挿絵
1	わらびの恩	山県郡大朝町	むかし、むかし	けつちらこ	大 81 AT 81 IT 517	蛇よけの言い伝え	昭53・4／15 ※写真 (春の採訪風景)
2	猿むこ入り	山県郡大朝町	むかし、むかし	けつちりこ	大 103 AT 433A IT 210A	異類婚姻譚 蛇婿入りと類似 水乞いでなく畑打ち	昭53・4／22
3	千里眼	山県郡大朝町	むかし、むかし	けつちりこ	大 626 AT 1641 IT 732A	嘘八掛 偶然が見事に男を救う笑話	昭53・4／29
4	瓜子織姫	山県郡大朝町	とんと、そのむかし。 むかし、むかし	なにも、むかしも、 けつちりこ	大 144A AT 408 533 IT 128	瓜姫子と天邪鬼 異常誕生譚 東日本の死と西日本の救出	昭53・5／6 ※挿絵
5	小僧の知恵	山県郡芸北町	むかし、むかし	むかし、むかし、 けつちりこ	大 283 AT 1002 IT 788	八化け頭巾 小僧と狐の知恵比べ 教訓的	昭53・5／13

16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	話
48	46	42	40	37	36	34	32	30	27	23	頁
金は蛙	手水を回せ	小僧のきつね退治	れ 男鹿山と女鹿山のいわ	力持ちの助友	日本はこの二倍もある	屁こき爺	日と月になった姉妹	継子ばなし	鴻の卵	日蓮聖人の半生旅日記	話 名
世羅郡甲山町	世羅郡甲山町	世羅郡甲山町	世羅郡甲山町	世羅郡甲山町	世羅郡甲山町	世羅郡甲山町	因島市中庄町	山県郡芸北町	山県郡芸北町	山県郡芸北町	伝承地
むかし	むかし	むかし	むかし	むかし、むかし	この辺は、狭あ谷 ばかりじゃけえ	むかし、 むかし。 むかし、	むかし、 むかしなあ	むかし、 むかし	むかし、 むかし	むかし	語り始め
					げなげなばなしや あ、うそじゃげな	むかし、むかし、 こっばった	げなげな話の、昔 の話じゃげな	もうし、むかし、 けつちりこ。むか しあむかつとうで、 いまはひざさら、 こちゃいたい	もうし、むかし、 けつちりこ		結末句
大 162A AT × IT 899	大 303 AT 1338 IT 1085	大 × AT × IT ×	大 235 AT × IT 384	大 × AT × IT ×	大 307 AT × IT 1077	大 189 AT 1655 IT 90	IT 大 348 245 AT 123 333 1180	大 208 AT 706 IT 178	大 105 AT 433A IT 205F	IT 大 926 264 415 AT 327 1698	話型分類番号
銭は蛙 金は蛇 嫁が見たら蛙に 笑話 欲深やいじめを戒める	笑話 愚か村話 地域の言葉の違い	人を化かす狐を退治する話	忠義な犬 地名由来譚 犬と人間の絆	力持ちの逸話	こども日本 笑話 嘘や見栄の戒め	竹伐り爺 笑話 教訓的	天道さん金の鎖 鬼と三人兄弟 子どもの留守番 教訓的	手無し娘 てつきり姉さま	異類婚姻譚 蛙の報恩譚、邪気払い酒	子守唄内通・本殺し半殺し 笑話 教訓話	関連話・テーマ・特徴等
昭53・9／2 ※写真 (今高野山から甲山町を 望む)	昭53・8／19	昭53・8／12 ※写真 (世羅の山中)	昭53・7／29	昭53・7／8	昭53・7／8	昭53・7／8	昭53・6／24 ※写真 (因島から瀬戸の島々を 望む)	昭53・6／3	昭53・5／27	昭53・5／20 ※写真 (説教僧の巡回の跡)	放送日 ※写真・挿絵

29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	話
65	64	63	62	60	58	55	54	53	53	52	51	49	頁
お産の神様	宝化物	小僧のとんち	おおかみのまひげ	ひょうとんさん	三次が商売の町として 繁盛したわけ	満濃池の大蛇	明礬と今晚	かつぼうどり	すずめ孝行	きこりどり	嫁花	因縁話	話名
安芸郡蒲刈町	安芸郡蒲刈町	三次市栗屋町	三次市向江田町	三次市青河町	三次市栗屋町	三次市栗屋町	三次市向江田町	三次市向江田町	三次市向江田町	三次市向江田町	三次市向江田町	三次市向江田町	伝承地
むかし、むかし	むかし、むかし	むかし	むかし	むかし、むかし。 ずっとむかし	むかし、むかし	むかし	むかし、むかし	むかし	むかし、むかし	むかし、むかし	むかし	むかし、むかし	語り始め
		むかし、 こよ		これでむかしかっ ぷり		むかしかっぷり						むかしかっぷりで すよ	結末句
大× AT× IT×	大258 AT812 IT210	大× AT× IT×	大172 AT168A IT155	大29 AT210 222 IT×	大489 AT1920 1960 IT313	大101B AT433A IT33	大× AT× IT×	大59 AT× IT573	大47A AT× IT454	大47A AT× IT454	大× AT× IT×	大× AT× IT×	話型分類番号
箒神と竈神 産神信仰	厄難克服譚 長者伝説 西日本に伝承される三井家先祖話	笑話 鼠経と類似	狼の眉毛 狼のまつ毛 貧乏から逃れる話 呪宝譚	雀の仇討 断片 鳥獣草木譚 猿蟹合戦の後半部に類似	法螺（ほら）比べ 笑話 巧智譚 （中国山地の牛）※写真	蛇婿入り・水乞型 後半は姥皮につながる	笑話 同音異義語の勘違い	よしとく鳥 小鳥前生譚 自責の念による小鳥化	雀孝行	雀孝行 親不孝なキツツキ	教訓的 姑にはやさしく	我欲は身を滅ぼす	関連話・テーマ・特徴等
昭53・10／21	昭53・10／21	昭53・10／14	昭53・10／14	昭53・10／7	昭53・10／7 ※写真	昭53・9／30	昭53・9／23	昭53・9／23	昭53・9／23	昭53・9／23	昭53・9／23	昭53・9／16	放送日 ※写真・挿絵

40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	30	話
78	75	74	73	72	71	70	69	68	67	66	頁
鼻高扇	鼻高扇	小僧の戒め	婆ヶ岩のたこ	弓張藤左衛門の化けねこ退治	ねことかぼちゃ	ふくろう前世	つばめの恩返し	ねこのたたり	寝て食われる	言うな地蔵	話名
比婆郡西城町	豊田郡大崎町	豊田郡木江町	豊田郡木江町	豊田郡木江町	豊田郡木江町	安芸郡蒲刈町	安芸郡蒲刈町	安芸郡蒲刈町	安芸郡蒲刈町	安芸郡蒲刈町	伝承地
むかし、むかし	むかし	むかし、むかし	むかし、むかし	むかし	むかし、むかし	むかし、むかし	むかし、むかし	むかしねえ	ええ話い言うて聞かせよう	むかし	語り始め
むかしこっぷりどじょうのめ					げなげな話でございます。とんとひとむかし						結末句
大469 AT566 IT381	大469 AT566 IT381	大546 AT× IT244	大403 AT× IT135	大253× AT× IT121	大254 AT× IT176	大50B AT× IT581	大× AT× IT×	大254 AT× IT176	大446 AT× IT447	IT× 大・本格新話33 AT960	話型分類番号
誇張譚 教訓話 致富からの没落	鼻高うちわ 長者譚 誇張譚 致富譚	小僧の讒言 とんち話 門の落書きと和尚	八本目の蛸の足 たこの足の八本目 愚入譚 伝説化	化け猫退治 猫と釜蓋 二四本の矢 伝説化	怪談的 前掲32話と関連	水乞鳥 ボロキチホーコ 教訓	報恩譚 蛇の首と燕の知らせ 生き物は大切に	猫と南瓜 部分的類似 干支に入らない理由	愚かな男に死ぬ方法を教える 語り始めは良い話	こんな晩 勧善懲悪的地蔵の霊験 諺「地蔵は言わぬがわれ言うな」	関連話・テーマ・特徴等
未詳 6/9	昭53・12/2	昭53・11/11 ※写真 (島の語り手)、挿絵	昭53・11/11 ※写真 (木江町の語り手)	昭53・11/11	昭53・11/11 ※写真 (木江町の町並み、三階建は昔の遊郭)	昭53・11/4	昭53・10/28	昭53・10/28	昭53・10/21 ※写真 (安芸郡蒲刈町、宮盛の港)	昭53・10/21	放送日 ※写真・挿絵

51	50	49	48	47	46	45	44	43	42	41	話
101	100	98	97	95	92	91	88	87	83	80	頁
和尚と焼きもち	村人のおよばれ	数の子	笠地蔵	笠地蔵	うさぎと墓のもち食い競争	さるかに合戦	かちかち山	肉づきの面	来 三十三間堂の棟木の由	来 三十三間堂の棟木の由	話 名
比婆郡口和町	比婆郡口和町	山県郡大朝町	比婆郡西城町	山県郡芸北町	山県郡大朝町	豊田郡東野町	豊田郡東野町	豊田郡大崎町	比婆郡西城町	豊田郡大崎町	伝 承 地
むかし、むかし	むかし	むかし、むかしのう	とんとむかしがありました	むかし	むかし、むかし	むかし、むかし。	むかし、むかし	むかし	むかし、むかし	むかし	語 り 始 め
むかしかつぶりよ		けつちらこ	むかしこつぱり、どじょうのめ	むかしこつぱり、むかっとう、いまあひざさら、こちやいたい	けつちらこ	ほうれとんと、ひとむかし	これでとんとん、ひとむかし				結 末 句
大 533 AT × IT 235	大 314 AT 1825 IT 1105	大 327 AT 1200 IT ×	大 203 AT D435 IT 42B	大 203 AT D435 IT 42A	大 20 AT 9C IT × 餅争い・餅つき型	大 24 AT 9C IT ×	大 32C AT × IT 531	大 398 AT 831 IT 62	大 109 AT 442 IT ×	大 109 AT 442 IT ×	話 型 分 類 番 号
和尚と小僧 焼き餅和尚 笑話 巧智譚	芋ころばし 笑話 愚か村話 越原話	笑話	笠地蔵招来型 報恩譚 地蔵を持ち帰る	笠地蔵来訪型 報恩譚	猿と墓と兎の餅競争	動物昔話 猿蟹合戦 栗・蜂・卵・白	動物昔話 かちかち山・仇討ち型 ウクウウウの繰り返し	肉付面 嫁姑話 信心を持つ大切さ	木魂智入 大木の秘密 大柳の切り方 異類婚姻譚 建物の起源	木魂智入 植物の報恩譚 異類婚姻譚 建物の起源	関 連 話 ・ テ ー マ ・ 特 徴 等
昭 54・I ／ 6	昭 54・1 ／ 6	昭 54・1 ／ 6	未詳	昭 53・12／30 ※写真 (野の地蔵、比婆郡東城町にて)	昭 53・12 ／ 30	昭 53・12 ／ 23	昭 53・12 ／ 23	昭 53・12／16 ※写真 (上大崎島の祭りの覚書)	未詳 ※写真(谷川に掛かる木橋、西城町にて)	昭 53・12 ／ 9	放 送 日 ※ 写 真 ・ 挿 絵

63	62	61	60	59	58	57	56	55	54	53	52	話
145	142	136	130	121	118	115	107	106	106	104	103	頁
雪の下のかいもち	山伏ぎつね	ていてい小坊師	鬼の面	うそつきこん平	婆いるか	永田の寝太郎	大工・万造	へびとかえる	「味噌精進」下を退け	からすの色が黒いわけ	たぬきときつねの海戦	話名
比婆郡口和町	比婆郡口和町	比婆郡口和町	比婆郡口和町	比婆郡口和町	比婆郡口和町	比婆郡口和町	比婆郡口和町	豊田郡東野町	豊田郡東野町	豊田郡東野町	豊田郡東野町	伝承地
むかし、あつたげなのう	むかし、あつたげなのう	むかし、むかしまあ	むかし	むかし、むかし	むかし	むかし、むかし	むかし、あつたげなのう。むかし	むかし	むかし	むかし	むかし、むかし。むかし	語り始め
むかし、かつぷりよ	むかし、かつぷり	それでむかし、かつぷりよ	むかしかつぷりよ	むかしかつぷり	むかしかつぷり	むかしかつぷりよ	むかしかつぷり					結末句
大360 AT1278 IT245	大275 AT× IT262	大260 AT812 IT92 297	大474 AT× IT132	大618 AT1525 1535 IT75	大401 AT× IT147	大126 AT1462 IT83	IT77 大164 AT930A 運定め 554 670	大× AT× IT×	大× AT× IT×	大× AT× IT×	大× AT× IT×	話型分類番号
和尚と小僧 笑話 頓知話 「雪降れば」の和歌	笑話 因果応報の教訓話 法印と狐・葬列型	化物問答 山寺の怪 旅の僧の化物退治	三次で藤布と鬼面を交換 年越しの準備	俵薬師 狡猾者譚	爺いるか 愚人譚 厄難克服譚 笑話 箒で叩くと人は死ぬ	難題 隣の寝太郎・鳩提灯、雉提灯型 とんびと天狗	夫婦の縁・聴耳 夫婦の運 呪法譚 出雲大社の霊験譚	動物由来譚 蛇と蛙の生態	精進の重要性 九十九島の起源	動物由来話 鳥の愛情深さ	動物昔話 大崎上島に狐がいない理由 狸は大島	関連話・テーマ・特徴等
昭54・3 ／10	昭54・3 ／10	昭54・3 ／3 ※挿絵	昭54・2 ／24 ※写真 (口和町の語り手)	昭54・2 ／10	昭54・2 ／3	昭54・2 ／3	昭54・1 ／27 ※写真 (お宮の絵馬)	昭54・1 ／20	昭54・1 ／13	昭54・1 ／13 ※写真 (島の夕暮れ)	昭54・1 ／13	放送日 ※写真・挿絵

75	74	73	72	71	70	69	68	67	66	65	64	話
180	178	173	171	169	167	166	164	158	156	152	147	頁
親代々のかさかき	だんなさんの注文	一寸法師	四の字はきらい	豆腐とこんにゃくの極楽まいり	長い名の子	長者の養子とり	餅は本尊様	ぶつとひょうたん	こぼれます	一平太郎(猿神退治)	三人兄弟	話名
山県郡芸北町	山県郡芸北町	山県郡芸北町	山県郡芸北町	山県郡芸北町	山県郡芸北町	山県郡芸北町	比婆郡口和町	比婆郡口和町	比婆郡口和町	比婆郡口和町	比婆郡口和町	伝承地
むかし	むかし	むかし	むかし	え むかし、 むかし、 ね	むかし	むかし、 むかし	むかし、 むかし	むかし	むかし、 あつたげな よのう	むかし、 むかし	むかし	語り始め
けつちりこ もうし、むかし、 けつちりこ	けつちりこ もうし、むかし、 けつちりこ	けつちりこ もうし、むかし、 けつちりこ		もうしむかし、 けつちりこでござ います	けつちりこ もうし、むかし、 けつちりこ	こりゃあ短い話で ございます		むかしからそうい う		むかしかつぶりよ	むかしかつぶり	結末句
大 331 AT 1696 IT 316	IT × 大 524 AT 465B 875 921	大 136B AT 700 IT 130	大 426B AT × IT ×	大 × AT × IT ×	大 638 AT × IT 282	大 131 AT × IT 39	大 535 AT × IT 234	大 333B AT 1696 IT 271	大 570 AT × IT 378	大 256 AT 300 IT 69	大 178B AT 303 IT 104	話型分類番号
愚か者話 茶栗柿麩 親代々の瘡搔(麻・橙・笠・柿)	笑話 難題譚 殿様の難題・打たぬ太鼓	異常誕生譚 小さき子話・智入型	言霊信仰 言語禁忌 笑話	笑話 同音異義語の頓知話 業(苦汁)と悪(灰汁)の出直し旅	笑話 形式譚 一人目は川で死ぬ 二人目は短い名	難題智・一把の藁	笑話 和尚と小僧 頓知話	笑話 愚かな兄弟 法事の使い 兄弟の名	笑話 小僧の頓知話 「涙がこぼれます」	猿神退治 冠山の天狗 犬の一平太郎と古狸	兄弟譚 難題智 化物退治	関連話・テーマ・特徴等
昭 54・4 ／ 28	昭 54・4 ／ 28	昭 54・4 ／ 14	昭 54・4 ／ 14	昭 54・4 ／ 14 ※写真 (山県郡芸北町八幡にて)	昭 54・4 ／ 14	昭 54・4 ／ 7	昭 54・3 ／ 31 ※写真 (比婆郡の荒神さん、西城 町にて)	昭 54・3 ／ 31 ※挿絵	昭 54・3 ／ 24	昭 54・3 ／ 24	昭 54・3 ／ 17	放送日 ※写真・挿絵

86	85	84	83	82	81	80	79	78	77	76	話
212	208	206	204	202	199	196	194	191	186	182	頁
仁王と賀王	猪むこ入り	鐘の音チンプラリン	ねずみの国へ行きたい わおさん	貧乏神	さる地蔵	鳥とけものの戦争	彦六どんとスツピョコ ピョン	馬子さんと鬼婆	まさらじ	おしん	話名
比婆郡西城町	比婆郡西城町	山県郡芸北町	山県郡芸北町	山県郡芸北町	山県郡芸北町	山県郡芸北町	山県郡芸北町	山県郡芸北町	山県郡芸北町	山県郡芸北町	伝承地
むかし、 むかし	むかし、 むかし	むかし	ある時、 土屋のいわ おさんが	むかし	むかし、 むかし。 むかし	むかし、 むかし	むかし、 むかし	むかし、 むかしねえ	むかし、 むかし	むかし、 むかしにねえ	語り始め
	むかしこつぷり、 どじょうのめ		もうしむかし、 けつちりこ	もうしむかし、 けつちりこ	もうし、 むかし けつちりこ	もうし、 むかし けつちりこ			もうし、 むかし けつちりこ	もうし、 むかし、 けつちりこ。むかしやあ、 むかつとう、いまあひざさ ら、こちやあいた い	結末句
大 480 AT 1962A IT 843	大 × AT 312A IT 211	大 486 AT × IT 802	大 185 AT 480 IT 82	大 201A AT 750A IT 59	大 195 AT 480 IT 103	大・動物新話型 AT 222 IT 484 16	大 × AT × IT ×	大 243 AT 1121 IT 99	大 211 AT 314 IT 98	大 110 AT × IT 71	話型分類番号
仁王17才と賀王25才、 往來の厄日、 日本のヤスリ製造起源	嫁入りの回避 猪に火付け	和尚の巧智譚 笑話 ものは聞きよう	鼠浄土 隣の爺は登場しない	夫の片袖と宿替え 致富譚	隣の爺譚 人真似の禁止	笑話 鳥獣合戦 蝙蝠の二心	愚かな動物 狸退治	牛方山姥 逃鼠譚	灰坊 風呂焚きの聾入 呪宝譚 母の扇子	蛇女房 異類婚姻譚 呪宝譚 洪水説話 見るなの禁止	関連話・テーマ・特徴等
昭 54・6 ／ 23	昭 54・6 ／ 16 ※写真 (成木責めのすもも)	昭 54・6 ／ 2	昭 54・6 ／ 2	昭 54・6 ／ 2	昭 54・5 ／ 26 ※写真 (山の中の田んぼ)	昭 54・5 ／ 26	昭 54・5 ／ 19	昭 54・5 ／ 19	昭 54・5 ／ 12	昭 54・5 ／ 5	放送日 ※写真・挿絵

話	話名	伝承地	語り始め	結末句	話型分類番号	関連話・テーマ・特徴等	放送日 ※写真・挿絵
87	仁王と賀王	比婆郡西城町	むかし		大 480 AT 1962A IT 843	獅子退治と日本の獅子頭 仁王と賀王は友だち	昭 54・6 / 23
88	十二支につるときつねが入っていないわけ	比婆郡西城町	むかし	むかしこつぷりど じょうのめ	大 12 AT 275 IT ×	十二支由来 狸と狐の言葉遊び	昭 54・6 / 23
89	産神問答	比婆郡西城町	むかし	むかしこつぷり	大 151C AT 934 IT 150	運定め・水の神型 子どもの水難除け	昭 54・6 / 30
90	ねこ檀家	比婆郡西城町	この隣の、東城町小 奴可に		大 230 AT 156A IT 386	動物報恩譚 東城町小奴可の猫山 見性寺	昭 54・6 / 30 ※写真 (猫山、東城町小奴可にて)
91	はちの助け	比婆郡西城町	むかし、むかし		大 127 AT 554 IT ×	蜂の援助 難題聳譚	昭 54・7 / 7
92	食わず女房	比婆郡西城町	むかし、むかし		大 244 AT 1458 IT 356 AB	蜘蛛女房 厄難克服の逃竄譚	昭 54・7 / 7 ※写真 (西城町の農家)
93	彦八の話千両	比婆郡西城町	むかし		大 515 AT × IT 434	彦八話 笑い話 話の功德	昭 54・7 / 14 ※写真 (採訪のようす、比婆郡西城町にて)
94	わらしべ長者	比婆郡西城町	むかし、むかし		大 155 AT 1415 1655 IT 96	立身出世譚 三年味噌型	昭 54・7 / 21
95	みそさぎいは鳥の王	比婆郡西城町	むかし、むかし		大 19B AT 221 IT 551A	熊に殺された鷲	昭 54・7 / 21
96	さるが三匹	安芸郡蒲刈町	むかし、むかし		大 × AT × IT ×	童唄	昭 53・10 / 21 ※写真 (瀬戸の語り手)

【付記】

資料集の出版に力を尽された栗原秀雄氏とは、口承文芸関連の諸学会においてご一緒する機会がありました。台風により学会の調査グループが離島に閉じ込められた期間中も、メディアに関わられたご経験をもとにたくさんのご教示をいただきました。遅くなりましたが、学恩に対し記してお礼を申し上げます。

合掌

尾道市立大学地域総合センター叢書12

印刷・発行日 2023年9月

編集・発行 尾道市立大学地域総合センター

〒722-8506

広島県尾道市久山田町1600番地2

TEL (0848) 22-8311

FAX (0848) 22-5460

表紙デザイン 世永逸彦

印刷所 大東印刷株式会社

〒723-0052

広島県三原市皆実4丁目5-30

TEL (0848) 62-3389